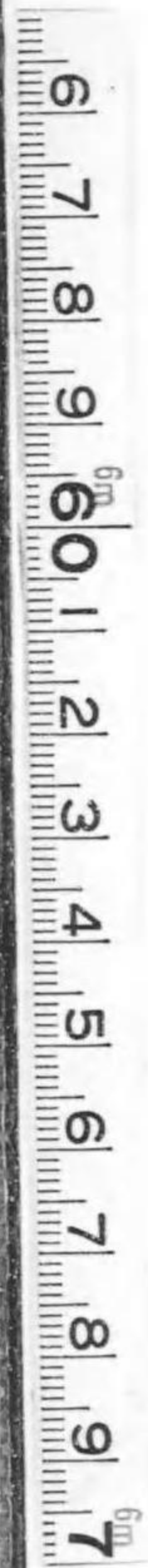


特 258

875

唐太宗法帖

四  
(十七帖)



始





特 258  
875

展大古法帖

(第四卷)

(第三回配本)

十七帖

中央書道協會





一、本書は聽水閣本十七帖を寫眞で展大したものであります。これはこの帖が一番鋒芒が鮮明で初學の者にもよく判るからであります。

一、しかしこの聽水閣本は筆法轉折の處が悉く截斷してゐて、中には不自然の様な所も有りますから、他の拓本から展大したものを卷末に附して比較研究の出来るやうにして置きました。

一、草書文字を展大するに文字と文字との連絡の點に於いて、やゝ無理が出来ますが、かゝる所は原本によつて研究あらんことを切望いたします。なほ展大するに點劃がすべてやゝ細目に見えますからこの點も注意あらんことをお願致します。たゞこの二點に留意して此の帖によつて研究せらるれば原本によるよりは非常に樂で、しかも効果が甚大です。また古來眞によく臨書の出来る書家は極めて稀ですから、つまり臨書本によるよりか本帖による方が安全且つ確實です。



十七日先書。 司馬

十七日先書

在都司馬



未去之其以

白之其也

未去。即日得足下書。

(三)

爲慰。先書以具示。復

(三)

爲正先書

以書示以



家子

吾子為東粗

數字。吾前東。粗

(四)

足作佳觀。吾為逸民

(五)

之佳佳觀

吾子為逸民



之  
惟  
久  
矣

之  
亦  
何  
以  
哉

懷久矣 足下何以

(六)

復乃此。似夢中語耶

(七)

以  
友  
此  
似

之  
亦  
中  
語  
耶



世之無  
為之面

為之  
無為之面

無緣言面。為歎。書何能

(八)

悉。龍保等平安也。謝之。甚

(九)

世之無  
為之面

世之無  
為之面



逢見  
月  
明

可  
之  
ま  
る

遲見卿。男可耳。至爲

(十)

簡隔也。今往絲布

(十一)

爲  
隔  
也

今  
往  
絲  
布



學子志財一

誦不致三

單衣財一端。示致意

(十三)

計與足下別。廿六年於今

(十三)

計馬子

廿六年於今



雖時書問不解潤懷。省足

雖時書問不解潤懷。省足

雖時書問不解潤懷。省足

(十四)

下先後二書。但增款概。

(十五)

但增款概

下先後二書。但增款概。



以積雪凝寒。五十年

中所無。想頃如常。冀

頃積雪凝寒。五十年

(十六)

中所無。想頃如常。冀

(十七)

中頃如常。冀

頃如常。冀



來夏秋間。或復得足下問耳

比者悠悠。如何可言。吾服

來夏秋間。或復得足下問耳

(十八)

比者悠悠。如何可言。吾服

(十九)

何可言。吾服

何可言。吾服



食久。猶爲劣々大都比

食久。猶爲劣々大都比

食久。猶爲劣々大都比

之年時。爲復可々。足下

之年時。爲復可々。足下

之年時。爲復可々。足下



保愛爲上。臨書但有偶

保愛爲上。臨書但有偶

保愛爲上。臨書但有偶

保愛爲上。臨書但有偶

保愛爲上。臨書但有偶

保愛爲上。臨書但有偶



離ふ一のふ

方少田西部

離不可居。叔當西耶。

(二十四)

在是る

遲知問。瞻近無緣

(二十五)

喉上世終



名者但有

心疑之小

省告。但有悲歎。足下小

(二十六)

大運未安

大悉平安也。云卿當來

(二十七)

也云之當未



乃此士正一進

亦一可之相必

居此。喜遲不可言。想必

(二十八)

亦之可之相必

果言。告有期耳。亦度

(二十九)

切之可之相必



月夕思不云一策

此免避又云

卿當不居京。此既避。又節

(三十一)

念事往是以前

氣佳。是以欣卿來也。此

(三十二)

似。今來也。此



信旨  
多  
意  
自  
公

亦  
曰

信旨遷。具示問

(三十二)

天鼠膏治耳聾。有驗

(三十三)

天  
鼠  
膏  
治  
耳  
聾

耳  
聾  
耳  
聾



不有 兹 者

乃是 安 系

不。有 贖者 乃是 要藥

(三十四)

朱處仁 今所在。往得其

(三十五)

朱 一 聖 仁 七

一 女 住 得 至



其書。信遠不取答。今因足下答

其書。可令必達。

(三十六)

(三十七)

其書。可令必達。

(三十六)

其書。可令必達。

(三十七)



足下年政七十耶。知體氣

當佳。此大慶也。想復動

足下年政七十耶。知體氣

(三十八)

多佳。此大

(三十九)

多也。想復動



加頤養。吾年垂耳順。

推之人理。得爾以爲厚幸。但

加頤養。吾年垂耳順。

推之人理。得爾以爲厚幸。但

子有厚乎德

子有厚乎德



公亦涉轉

無通之字

恐前路轉欲逼耳。以爾

(四十二)

要一遊目汶領

非復常

(四十三)

汶領水汶為



言之六但方用

得波以信此

言。足下但當保護以俟此

(四十四)

期。勿謂虛言。得果此緣。一

(四十五)

期勿謂虛言

得果此緣一



取奇事也

去夏得足下

致邛竹杖。皆至此士人多

致邛竹杖。皆至此士人多

致邛竹杖

致邛竹杖



有以爲老者

皆即分布

有以爲老者。皆即分布

(四十八)

令知足下遠惠之至。

令知足下遠惠之至。

(四十九)

卷之四十一



省之六子

海之波于山

省足下別疏。具彼土山

(五十)

川流之奇物

川諸奇。楊雄蜀都左

(五十一)

醒之奇物



太坤三都

殊為不備

太冲三都。殊為不備

(五十二)

生波奇為

悉。被故為多奇。益令

(五十三)

多奇為



一  
去  
好  
回  
三  
一

元  
也  
可  
得

其遊目意足也。可得

(五十四)

果  
山  
用  
出  
之

果當告脚求迎。少人

(五十五)

形  
忽  
少  
人



之可、五、寸

不、之、年、底

足耳。至時示意。遲此

(五十六)

期、真、以、日、為、歲、想、足

(五十七)

為、年、本、想、之



心鏡波志

未之有勅理

下鏡彼土未有勅理

(五十八)

耳要欲及卿在彼登汝

耳。要欲及卿在彼登汝

(五十九)

在波心汝



領峨眉眉一刃

於空不新

領峨眉。而旋。實不朽

(六十)

之盛事。但言此。心以馳

(六十一)

之生也子但

云此心以馳



於波其

波澹井火

於彼矣。彼鹽井火

(六十二)

井皆在不。足下目見不。為

(六十三)

井兮其不

之六因見不為



具  
足  
下  
小  
大  
間  
爲  
慰  
多

具  
足  
下  
小  
大  
間  
爲  
慰  
多

欲廣異聞。具示省別

(六十四)

具  
足  
下  
小  
大  
間  
爲  
慰  
多

具足下小大間。爲慰。多

(六十五)

具  
足  
下  
小  
大  
間  
爲  
慰  
多



分洪云云

痴情也

分張。念足下懸情。武昌諸

(六十六)

子亦多遠宦。足下兼

(六十七)

定是云云



惺以之為句

六老婦以

懷。並數問不。老婦頓

(六十八)

疾篤救命。恒憂慮。餘

(六十九)

收為魚符



相見  
相安  
相忘

之  
心  
情  
之  
意

粗平安。知足下情至。

(七十)

且  
夕  
干  
却  
之

且夕都邑動靜和。

(七十一)

為  
教  
清  
和



想足下使還。具時。州將

想足下使還。具時。州將

想足下使還。具時。州將

(七十二)

想足下使還。具時。州將

想足下使還。具時。州將

(七十三)

想足下使還。具時。州將



命也。附無奕外任。歐書同。  
命也。附無奕外任。歐書同。

命也。附無奕外任。歐書同。

命也。附無奕外任。歐書同。

(七十四)

命也。附無奕外任。歐書同。

命也。附無奕外任。歐書同。

(七十五)

命也。附無奕外任。歐書同。



後如何可

山勢如

險。如何可言。嚴君平。司

(七十六)

馬相如楊子雲皆有後不

(七十七)

雲山勢如



均 女 氏 從

煉 平 安 如

胡母氏從煉平安。故

在永興。居去此七十也。

(七十八)

在 乃 如 煉 平 安

(七十九)

在 乃 如 煉 平 安



吾在官智識

理極以爲

吾在官。諸理極差。頃

(八十)

以復勿々。來示云與其

比復勿々。來示云與其

(八十二)

亦之之之



妍勿來信

如

婢。問來信不得也。

(八十二)

吾有七兒一女

吾有七兒一女。皆同生。婦

(八十三)

一。女皆同生。婦



娶以畢。唯一少者尙未

婚耳。過此一婚。便得至彼。

娶以畢。唯一少者尙未

(八十四)

婚耳。過此一婚。便得至彼。

(八十五)

婿便得。至彼

婿耳。過此一婚。便得至彼。



今内外孫有

十六人乞

今内外孫有十六人。足履

(八十六)

目前。足下情至委曲。故

(八十七)

因前之六情

主委曲故



空亦

之  
准  
調  
子

具示。云騰周有

(八十八)

孫。□高尙不出。今爲所。

(八十九)

孫  
□  
之  
高  
尙  
出

不  
出  
之  
高  
尙  
出



在其人  
有以副  
此志不  
令

在其人  
有以副  
此志不  
令

在其人有以副此志不令

(九十)

人依  
之具  
示

人依之具示

(九十二)

人依  
之具  
示



知有漢時講堂在。是

漢何帝時立此知畫

知有漢時講堂在。是

(九十二)

漢何帝時立此知畫

(九十三)

漢何帝時立此知畫



三皇五帝

以才備有

三皇五帝以來備有。

(九十四)

書又精妙甚可觀也。

(九十五)

畫又精妙

亦可觀也



波有子魚

者不為因

彼有能盡者不欲因

(九十六)

草率取當可

草取。當可得。不信具

(九十七)

得少信里



中書

諸君  
以三  
益每

告諸從並敬

(九十八)

有  
門  
粗  
一  
和

有問。粗平安。唯翰蒙

(九十九)

安  
唯  
順  
我



在卷之音刃

不瓦細情

在遠。音同不敵。懸情。

(100)

司物新考

司州疾篤不果西。公

(101)

不采西公



私可相之

に云去也

私可恨。足下所云。皆也

(1011)

事勢。吾無間然諸問

(1011)

子勢方在也

月結法也



想足下別具。不復一々。

往在都。見諸葛顯

想足下別具。不復一々。

(104)

以爲

往在都。見諸葛顯

(105)

往在都。見諸葛顯



當里尹蜀中

子之味亦者

晉具問蜀中事。云。成都

(102)

城池門屋樓觀。皆是

(103)

城池門屋

樓觀皆是



奉時司引為

錯以修為

奉時可馬錯所修。(令人遠想慨然。)為

(二〇八)

爾不。信具示。為欲廣異

(二〇九)

遠想物然不  
今遠想物然不

為先度廣異







我  
淡  
乃  
一  
安

也  
知  
足  
下  
謂  
頃  
服  
食  
方  
回

我鹽乃要也。是服食所須

知足下謂頃服食。方回

(一一三)

知  
足  
下  
謂  
頃  
服  
食  
方  
回

(一一三)

知  
足  
下  
謂  
頃  
服  
食  
方  
回



近之。未許吾此志。知

我者希。此有成言

(一一四)

(一一五)

此乃集字

此乃集字



母 孫 欠 卜

以 當 一 嘆

無緣見聊。以當一嘆。

(一一六)

波 三 匠 此

彼所須此藥草。可示。

(一一七)

茶 字 子 一 的 一 末



當致

青李來禽

當致。青李。來禽。

子皆囊盛為佳。函封多

子皆囊盛

(二一九)

為佳函封多

(二一八)



不生櫻桃

日給藤

不生。櫻桃日給藤

(1110)

之江一乃

足下所疏云。此菓佳。

(1111)

之江一乃佳



可為致子

當種之此

可為致子。當種之。此

種。彼胡桃。皆生也。吾

(三三)

種。彼胡桃。皆生也。吾

(三三)

可為致子



為十在田里唯

今在田里唯

萬壽種粟。今在田里唯

(二二四)

以此為事。故遠及。足下致。

(二二五)

今在田里唯

為十在田里唯



此子者大惠也

魚也

此子者大惠也。

知彼清晏康豐。又所

知彼清晏康豐。又所

知彼清晏康豐。又所



出有無之

故是名處

出有無之即故是名處。

(二二八)

且山川形勢乃爾何

且山川形勢乃爾何

(二二九)

勢乃與何



可以示靜白

雲云安志士

何以不遊目。虞安吉者

(130)

昔有之此

昔與共事。常念之。今

(131)

昔有之此



為殿中將軍

為殿中將軍

為殿中將軍。前過。云與

足下中表。不以年老。甚

足下中表

足下中表



念  
之  
心  
六

为  
六  
六  
六  
六  
六

欲足下爲下察。意

(一三四)

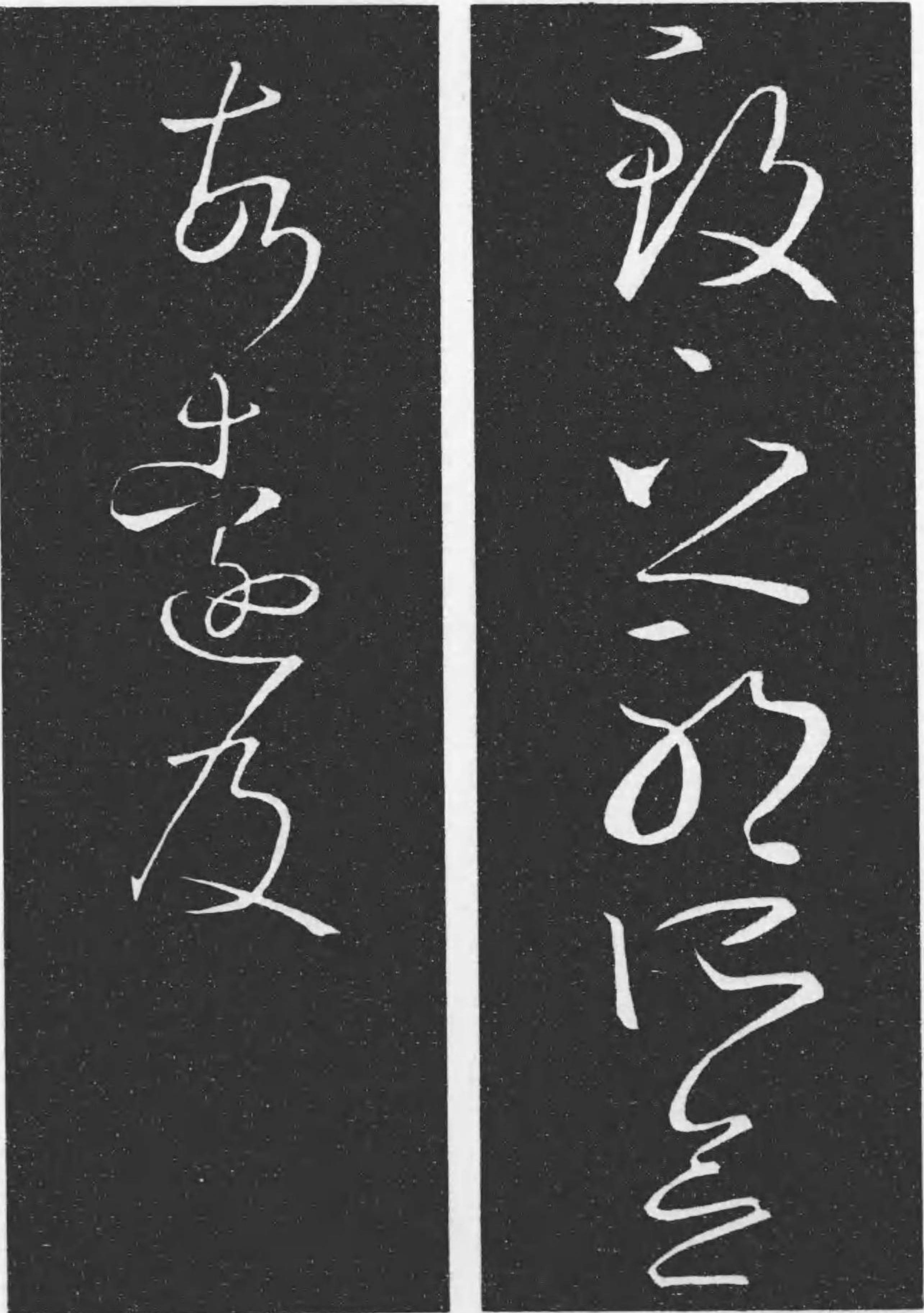
其實可得小郡。足下可思

(一三五)

王  
漢  
之  
月  
山

那  
之  
之  
之  
之  
之





### 十七帖の解説

この帖は、書聖王羲之の草書中では第一のものだに稱せられ、古今草書中の最高級のものにせられてゐます。王羲之がその故人たる益州(蜀)刺史周撫に及び近親に與へられた書簡を集めたものであります。

十七帖といふのは、巻頭に十七日の文字があるから、その頭首の字を取つて名づけたものであります。館本は巻末に太宗の御書勅の字を補遺良の細楷弘文館云々の文字があるからであります。

この帖で最も權威ある代表的のものに、三井氏聽水閣藏の館本十七帖といふのがありますから、本書はこれを寫眞で拡大したものであります。この帖は、もつ貫名海屋翁の舊藏でありました。海屋の高足内村鱸香云ふ人が嘗て、人に語つて曰うやう「我師は十七帖を四十余种も藏して居られたが、其の數多き中でこの帖を冠せなし、球圖も曾ならず愛重せられた」と。翁の歿後一六翁の手を経て鳴鶴翁の許にありましたが、今は三井氏の藏となつてゐます。金石文學者としての權威者楊子敬氏はこの帖を見て非常に感嘆し、邢子愿の原本にも遜らぬまで推重したこのこと御座います。鋒芒の鮮明なる事は、この帖の右に出るものは有りませんが、筆法轉折の處が悉く截斷してあります。この處を鳴鶴先生は「筆劃轉折の處斷ぜんご欲してまた連る。古人の謂ゆる連所皆斷じ、斷處皆連るの妙、この帖に於て始めて見るこゝを得べし」と言つて居られます。しかし眞蹟は恐らく、かく斷筆して書いたものではなく、初學者のために筆路を明瞭にするために鈎筆のこきかくしたものであらうこの説もあります。斷處中に不自然な處がある点から見ますと、或はこの方が正しい説かとも思はれますので、他の帖と比較出来る様に掲げて置きましたから参照して下さい。

次に参考のために讀み方を掲げます。

十七日先書。都司馬未去。即日得足下書。爲慰。先書以具示。復數字。

(釋) 十七日ノ先書、都司馬未ダ去ラザルニ、即日足下ノ書ヲ得テ、慰ヲナス。先書以ニ具示セリ。數字ヲ復スルノミ。

吾前東。粗足爲佳觀。吾爲逸民懷久矣。足下何以等。復及此。似夢中語耶。無緣言面。爲歎。書何能悉。

(釋) 吾前ニ東ス。粗佳觀ヲ爲スニ足レリ。吾逸民ノ懷ヲ爲スコト久シ。足下何ゾ以テ等ツ。復此レニ及ブ。夢中ノ語ニ似タルカ。言面スルニ



縁ナシ。歎ヲナス。書何ゾ能ク悉サシ。

龍保等平安也。謝之。甚遲卿來。舅可耳。至爲簡隔也。

(釋) 龍保等平安ナリ。之ヲ謝ス。甚ダ卿ノ來ルヲ遲ツ。舅可ナラムノミ。至ンテ間隔トナス。

今往絲布單衣財一端。示致意。

(釋) 今絲布ノ單衣財カニ一端ヲ往ル。致意ヲ示スノミ。

計與足下別。廿六年於今。雖時書問。不解澗懷。省足下先後二書。但增歎慨。頃雪凝寒。五十年中所無。想。頃如常。冀來夏秋間、或復得足下問耳。比者悠々。如何可言。

(釋) 足下ト別レタルコトヲ計ルニ、今ニ廿六年ナリ。時ニ書問スト雖モ、澗懷ヲ解カズ。足下ノ先後ノ二書ヲ省シテ、但歎懷ヲ増ス。頃ロノ積雪凝寒ハ、五十年中ノ無キ所ナリ。頃ノ常ノ如クナラム。來夏秋ノ間ニ或ハ復ビ足下ノ問ヲ得ムコトヲ冀フノミ。比者悠々。如何ンゾ言フベケム。

吾服食久。猶爲劣々。大都比之年時。爲復可々。足下保愛爲上。臨書但有惆悵。

(釋) 吾レ服食(發音飼ニ同ジ、職ト發音スベカラズ、古字ハ人食ノ合文似ナリ)スルコト久シ。猶劣々トス。大都之ヲ年時ニ比スルニ、復可々トス。足下保愛ヲ上トス。書ニ臨ンデ但惆悵スルアルノミ。

知足下行至吳會。遠離不可居。叔當西耶。遲知問。

(釋) 知ル足下行ク々々吳會ニ至ルヲ。遠離シテ居ルベカラズ。叔當ニ西スベキカ。知問ヲ遲ツ。

瞻近無緣省告。但有悲歎。足下小大悉平安也。云卿當來居此。喜遲不可言。想必果言。告有期耳。亦度卿當不居京。此既避。又節氣佳。是以欣卿來也。此信旨還。具示問。

(釋) 瞻近ゴロ省告スルニ縁ナシ。但悲歎スルアルノミ。足下小大悉ク平安ナリヤ。云フ卿來ツテ此(會稽即チ吳ナリ)ニ居ルト。喜ビ待ツコト言フベカラズ。想フニ必ズ言ヲ果サン。告グルコト期アランノミ。亦度ルニ卿當ニ京ニ居ラザルベシ。此ニ既ニ避ク。又節氣佳ナリ。是ヲ以テ卿ノ來ルヲ欣ブナリ。此ノ信旨還ルトキ、具サニ示問セヨ。

天鼠膏治耳聾。有驗不。有驗者、乃是要藥。

(釋) 天鼠膏ハ耳聾ヲ治スト。驗アリヤ不ヤ。驗アラバ、乃チ是レ要藥ナリ。

朱處仁今所在。往得其書。信遂不取答。今因足下答其書。可令必達。

(釋) 朱處仁今所在。往ニ其ノ書ヲ得タリ。信遂ニ答ヲ取ラズ。今足下ニ因リテ其ノニ書答フ。必ズ達セシムベシ。

足下年政七十耶。知體氣當佳。此大慶也。想復勲加願養。吾垂耳順。推之入理。得爾以爲厚幸。但恐前路轉欲逼耳。以爾要欲一遊目汶領。非復常言。足下但當保護以俟此期。勿謂虛言。得果此緣。一段奇事也。

(釋) 足下年政ニ七十ナラン。知ル、體氣當ニ佳ナルベシ。此レ大慶ナリ。想フニ復勲ロニ願養ヲ加ヘヨ。吾レ耳順ニ垂ントス。之ヲ入理ニ推スニ、爾ルヲ得ルハ、以ニ厚幸トナス。但前路ノ轉々逼ラムト欲スルヲ恐ルルノミ。爾ルヲ以テ要ラズ一タビ汶領ニ遊目セムト欲ス。常言ヲ復スルニ非ズ。足下但當ニ保護シテ以テ此ノ期ヲ待ツベシ。虛言ト謂フ勿レ。此ノ緣ヲ果スヲ得バ、一段ノ奇事ナリ。

去夏得足下致邛竹杖。皆至此。士人多有尊老者。皆即分布。令知足下遠惠之至。

(釋) 去夏足下ノ致レル邛竹杖ヲ得タリ。皆此ニ至ル。士人多ク尊老者有リ。皆即チ分布シ、足下遠惠ノ至(攀ノ假)ヲ知ラシメタリ。

省足下別疏。具彼土山川諸奇。楊雄蜀都、左太沖三都。殊爲不備悉。彼故爲多奇、益令其遊目意足也。可得果。當告卿求迎。少人足耳。至時示意。遲此期。真以日爲歲。想足下鎮彼土。未有動理耳。要欲及卿在彼。登汶領。峨眉而旋。實不朽之盛事。但言此。心以馳於彼矣。

(釋) 足下ノ別疏ヲ省ルニ、彼土ノ山川ノ諸奇ヲ具セリ。楊雄ノ蜀都「賦」左太沖ノ三都「賦」モ、殊ニ備悉セズトナス。彼レ故奇多シトナス。益々其レヲ遊目セシメバ、意足ラム。果スヲ得バ、當ニ卿ニ告ゲテ迎ヲ求ムベシ。少人ニテ足ラムノミ。「書」至ル時ニ意ヲ示セ。此ノ期ヲ遲チ、真ニ日ヲ以テ歲トナス。想フニ足下ノ彼ノ土ヲ鎮スルコト、未ダ動ク理有ラザルノミ。要ス卿ガ彼ニ在ルニ及ビ、汶領「岷嶺」峨眉「山」ニ登リテ旋ラムト欲ス。實ニ不朽ノ盛事ナリ。但此レヲ言フスラ、心以ニ彼ニ馳ス。

彼鹽井火井皆在不。足下目見不。爲欲廣異聞。具示。

(釋) 彼ノ鹽井火井皆在リヤ否ヤ。足下目ノアタリ見タリヤ不ヤ。異聞ヲ廣クセムガタメニ、具示セヨ。



【4】

省別具足下小大問。爲慰。多分張。念足下懸情。武昌諸子。亦多遠宦。足下兼懷。並數問不。老婦頃疾篤。救命。恒憂慮。餘粗平安。知足下情至。

(釋) 別具ノ足下ノ小大ノ問ヲ省テ、慰ヲナス。多クハ分張ス。足下ヲ念ウテ懸情ス。武昌ノ諸子モ亦多クハ遠宦セリ。足下兼懷、並ビニ數ニ問セリヤ否ヤ。老婦頃口疾篤ク、救命ス。恒ニ憂慮セリ。餘ハ略平安ナリ。足下ノ情至ヲ知ル。

旦夕都邑動靜靜和。想。足下使還。具時。州將。桓公告慰。情企足下數使命也。謝無奕外任。數書問。無他。仁祖日往。言尋悲酸。如何可言。

(釋) 旦夕都邑ノ動靜清和ナリ。想フニ、足下使シテ還リ、時ヲ具セバ、州將タラン。桓公告慰ス。情足下ノ數々使命セムコトヲ企メリ。謝無奕外任(或ハ住ト釋スル人アリ)數々書問ス。他ナシ。仁祖日ニ往ク。言尋悲酸ナリ。如何ムゾ言フベケム。(疏證)

嚴君平。司馬相如。楊子雲。皆有後不。

(釋) 嚴君平、司馬相如、楊子雲、皆後有リヤ不ヤ。

胡母氏從妹平安。故在永興。居去此七十也。吾在官。諸理極差。頃比復勿々。來示云。與其婢。問來信不得也。

(釋) 胡母氏ノ從妹平安ナリ。故永興ニ在リ。居此ヲ去ルコト七十(里)ナリ。吾官ニ在リテ、諸理極メテ差フ。頃比リニ復勿々ナリ。來示ニ云フ。其ノ婢ニ與フト。來信ニ問ヘドモ得ズ。

吾有七兒一女。皆同生。婚娶以畢。唯一少者。尙未婚耳。過此一婚。便得至彼。今內外孫有十六人。足慰目前。知足下情至委曲。故具示。

(釋) 吾ニ七兒一女アリ。皆同(腹ノ)生ナリ。婚娶以ニ畢ル。唯一小者ノ尙未ダ婚セザルノミ。此ノ一婚ヲ過サバ、便チ彼ニ至ルヲ得ム。今内外孫十六人アリ。目前ヲ慰スルニ足ル。足下ノ情至委曲ヲ知ル。故ニ具示。

云。誰周有孫。高尙不出。今爲所。在其人有以副此志不。令人依々。足下具示。

(釋) 云フ、誰周ニ孫アリ、高尙ニシテ出デズト。今所ヲナス。其ノ人ヲ在ルニ以テ此ノ志ニ副フ有リヤ不ヤ。人ヲシテ依々タラシム。足下具示セヨ。(疏證)

知有漢時講堂在。是漢何帝時立此。知畫三皇五帝以來備有。畫妙又精。甚可歡也。彼有能畫者不。欲因摹取。當可得不。信具告。

(釋) 知ル、漢ノ時ノ講堂ノ在ル有ルヲ。是レ漢ノ何ノ帝ノ時ニ此ヲ立テタリヤ。知ル、三皇五帝以來ヲ畫キテ備サニ有リ、畫又精妙ニシテ、甚ダ觀ルベキヲ。彼ニ畫ヲ能クスル者アリヤ不ヤ。因ツテ摹取セムト欲ス。當ニ得ベキヤ不ヤ。信(ヲ以テ)具サニ告ゲヨ。

諸從並數有問。粗平安。唯脩載在遠。音問不數。懸情。司州疾篤。不果西。公私可恨。足下所云。皆盡事勢。吾無間然。諸問想足下別具。不復一々。

(釋) 諸從並ニ問アリ。粗平安ナリ。唯脩載遠キニ在リ。音問數々セズ。懸情ス。司州疾篤ク、西スルヲ果サズ。公私恨ムベシ。足下ノ云フ所皆事勢ヲ盡クス。吾レ間然スルコトナシ。諸問ハ想フニ足下別ニ具セム。復一々セズ。

往在都。見諸葛顯。曾具問蜀中事。云。成都城池門屋樓觀。皆是秦時司馬錯所修。令人遠想慨然。爲爾不。信具示。爲欲廣異聞。

(釋) 往ニ都ニ在リシトキ、諸葛顯ヲ見テ、曾テ具サニ蜀中ノ事ヲ問ヒシニ、云フ、成都ノ城池門屋樓觀ハ、皆是レ秦ノ司馬錯ガ脩ムル所ト。人ヲシテ遠想慨然タラシム。爾リトナサヤ否ヤ。信具サニ示セ。異聞ヲ廣クセンガタメナリ。

得足下旃闕胡桃藥二種。知足下至。戎鹽乃要也。是服食所須知。足下謂頃服食。方回近之。未許吾此志。知我者希。此有成言。無緣見卿。以當一咲。

(釋) 足下ノ(寄スル所ノ)旃闕・胡桃藥二種ヲ得タリ。足下ノ至ナルヲ知ル。戎鹽乃チ要(藥)ナリ。是レ服食(家)ノ須ラク知ルベキ所ナリ。足下謂メテ頃ラク服食セヨ。方回之ニ近シ。未ダ吾ガ志ヲ許サズ。我ヲ知ル者希ナリ。此レ成言アリ。卿ヲ見ルニ緣ナシ。以テ當ニ一咲スベシ。(疏證)

彼所須藥草。可示。當致。

(釋) 彼ノ須フル所ノ藥草、示スベシ、當ニ致スベシ。(疏證)

【5】



青李・來禽・櫻桃・日給藤。子皆囊盛爲佳。函封不生。

(釋) 青李キモ。來禽リソゴ。櫻桃ユスラ。日給藤タネ。子ハ皆囊ニ盛ルヲ佳トス。函ニ封ズレバ、生ゼズ。

足下所疏云。此菓佳。可爲致子。當種之。此種彼胡桃。皆生也。吾篤喜種菓。今在田里。唯以此爲事。故遠及。足下致此子者大惠也。

(釋) 足下ノ疏スル所ニ云ク。此ノ菓(青李・來禽・櫻桃・日給藤)佳ナリ、爲ニ子ヲ致スベシ、當ニ之ヲ種ウベシト。此(會稽)ニ彼ノ(曩日)送リ致サレタル)胡桃ヲ種エシニ、皆生ジタリ。吾レ篤ク菓ヲ種ウルコトヲ喜ブ。今田里ニ在リテ、唯此(果樹栽培)ヲ以テ事トナス。故ニ遠ク(索メ)及ブ。足下此ノ子ヲ致サバ大惠ナリ。

知彼清晏歲豐。又所出有無。鄉故是名處。且山川形勢乃爾。何可不遊目。

(釋) 知ル彼(蜀)ノ清晏歲豐ナルヲ。又出ス所(ノ物産、他地)ノ無キモノ有リ。鄉ニ故是レ名處ナリ。且ツ山川ノ形勢乃チ爾リ。何ゾ遊目セザルベケムヤ。(疏證)

虞安吉者、昔與共事。常念之。今爲殿中將軍。前過云。與足下中表。不以年老。甚欲與足下爲下寮。意其資可得小郡。足下可思致之耶。所念故遠及。

(釋) 虞安吉ハ、昔與ニ事ヲ共ニセリ。常ニ之ヲ念ヘリ。今殿中將軍タリ。前ニ過ギリテ云フ。足下ト中表タリト。年老イタルヲ以テセズ。甚ダ足下ノ與ニ下寮タラムト欲ス。意フニ其ノ資小郡ヲ得ベケム。足下之ヲ致スヲ思フベキカ。念フ所ナルガ故ニ遠ク及ブ。

太宗の御勅書の字及び褚遂良の文字



付直弘文館  
臣解无畏勒  
玩館太  
臣褚遂良撰  
無失



本帖の原本聽水閣帖の一部

十七日先本館、司馬未  
其以白之、亦為至先書  
何家後如字

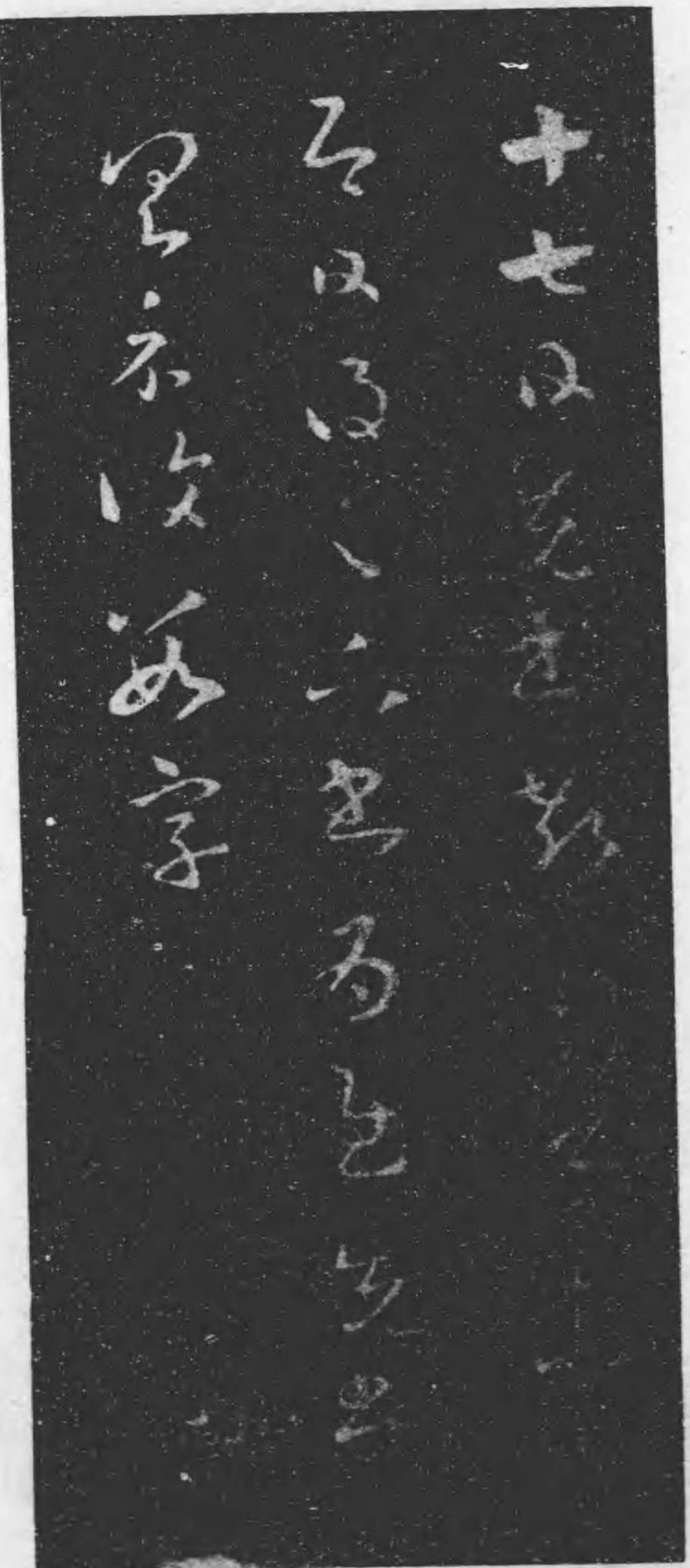


本帖の原本聽水閣帖の一部

吾々あ東粗之他、其  
為急改之、惟久、其  
大以友、此以、君中、語、邪



唐拓十七帖の一部（聽水閣帖と比較を乞ふ）



一頁一行四字目にあり  
横胸つき居る点に注意



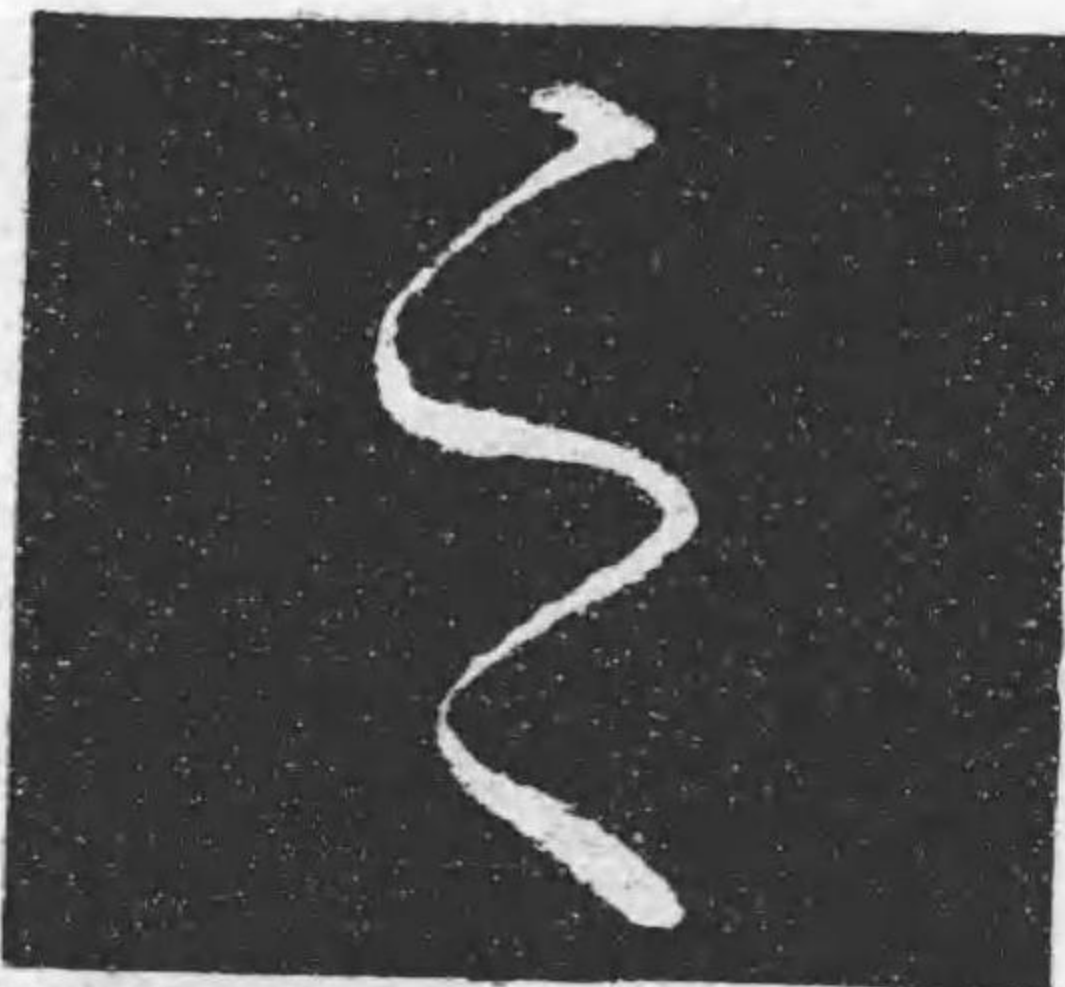
一頁二行の最初にあり 起筆に注意



五頁二行二字目にあり 点劃斷接に注意



二十一頁の初にあり 同前



二十一頁の二行四字目にあり  
この方自然



二十一頁の終にあり 同前



二十二頁の二行二字目にあり



七頁の終にあり  
 初めの点つゞける点異なる  
 八頁二行の初にありこの方字体まるし  
 九頁の初にあり初の点及び堅棒はこの方自然の如し  
 十頁初行の二字目にありこの方点割よし  
 十一頁の初行二字目にありこの方は一説にある等の略字に見ゆ備考この字は方ミいふ説ミ等ミいふ説ミあり  
 十二頁初行三字目にありこの方自然の如し一方は截断のためなり

一頁一行四字目にあり  
横腕つゞき居る点に注意

友

一頁二行の最初にあり起筆に注意

友

五頁一行二字目にあり点割断接に注意

化

五頁二行二字目にあり同前

有

六頁一行二字目にあり同前

埋

六頁二行二字目にあり同前

六

七頁の終にあり  
初めの点つゞける点異なる

有

八頁二行の初にありこの方字体まるし

有

六頁の二行最後によりこの方は一説にある等の略字に見ゆ備考この字は方ミいふ説ミ等ミいふ説ミあり

才

九頁の初にあり初の点及び堅棒はこの方自然の如し

生

十頁初行の二字目にありこの方点割よし

見

十一頁の初行二字目にありこの方は一説にある等の略字に見ゆ備考この字は方ミいふ説ミ等ミいふ説ミあり

偏

十一頁の二行二字目にありこの方自然の如し一方は截断のためなり

主

十一頁の終にあり同前

主

十二頁初行三字目にあり同前

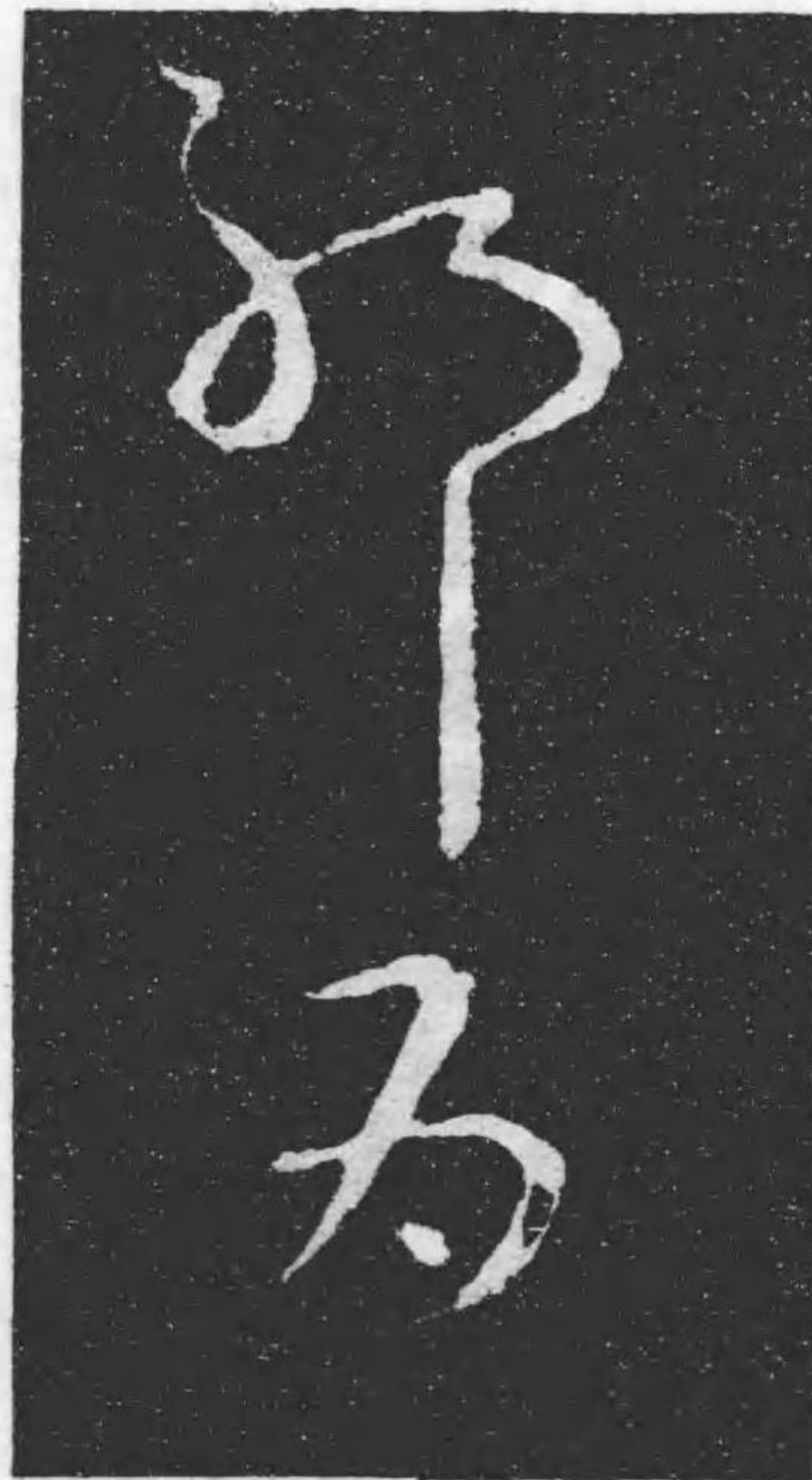
主



七頁の終にあり  
初めの点つゞける点異なる

八頁二行の初にありこの方字体まるし

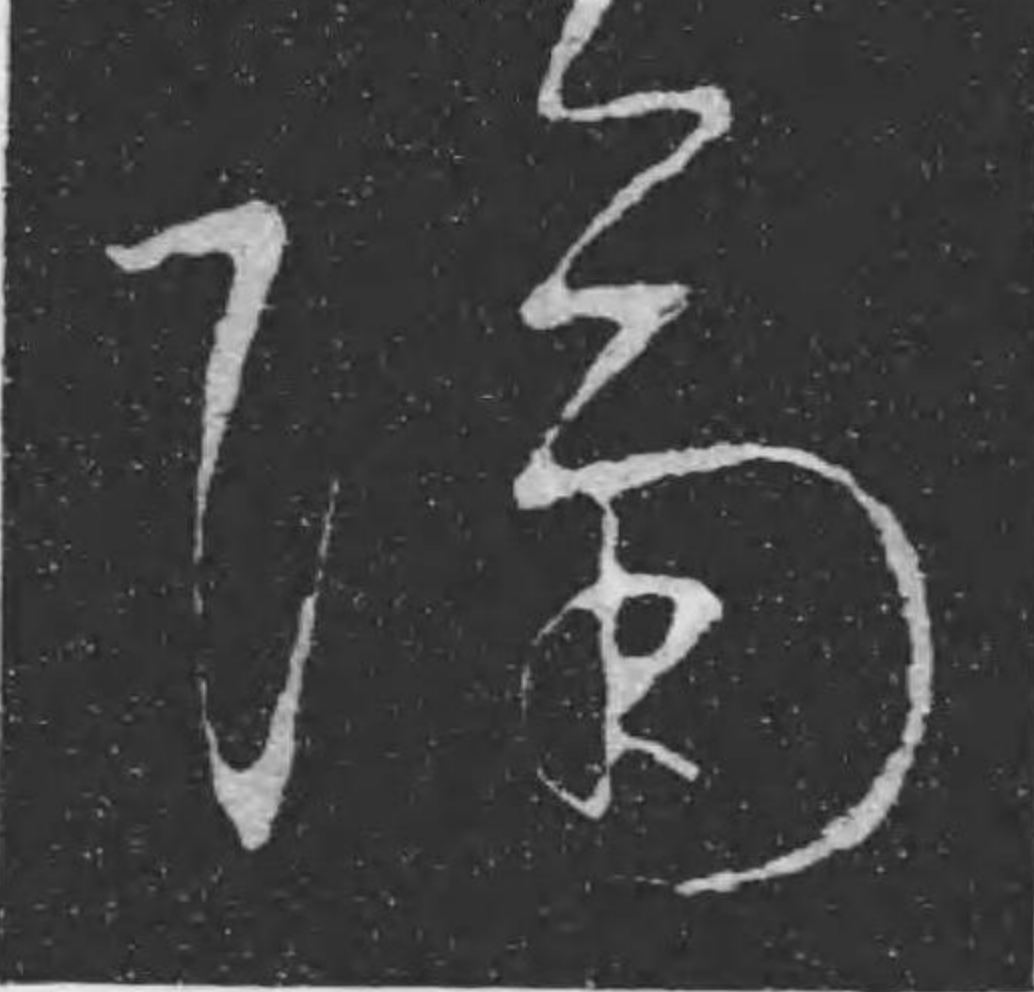
六頁の二行最後にありこの方は一説に  
ある等の略字に見ゆ  
備考この字は方いふ説三等さいふ説  
あり



九頁の初にあり初の点及び堅棒はこの  
方自然の如し

十頁初行の二字目にあり  
この方点劃よし

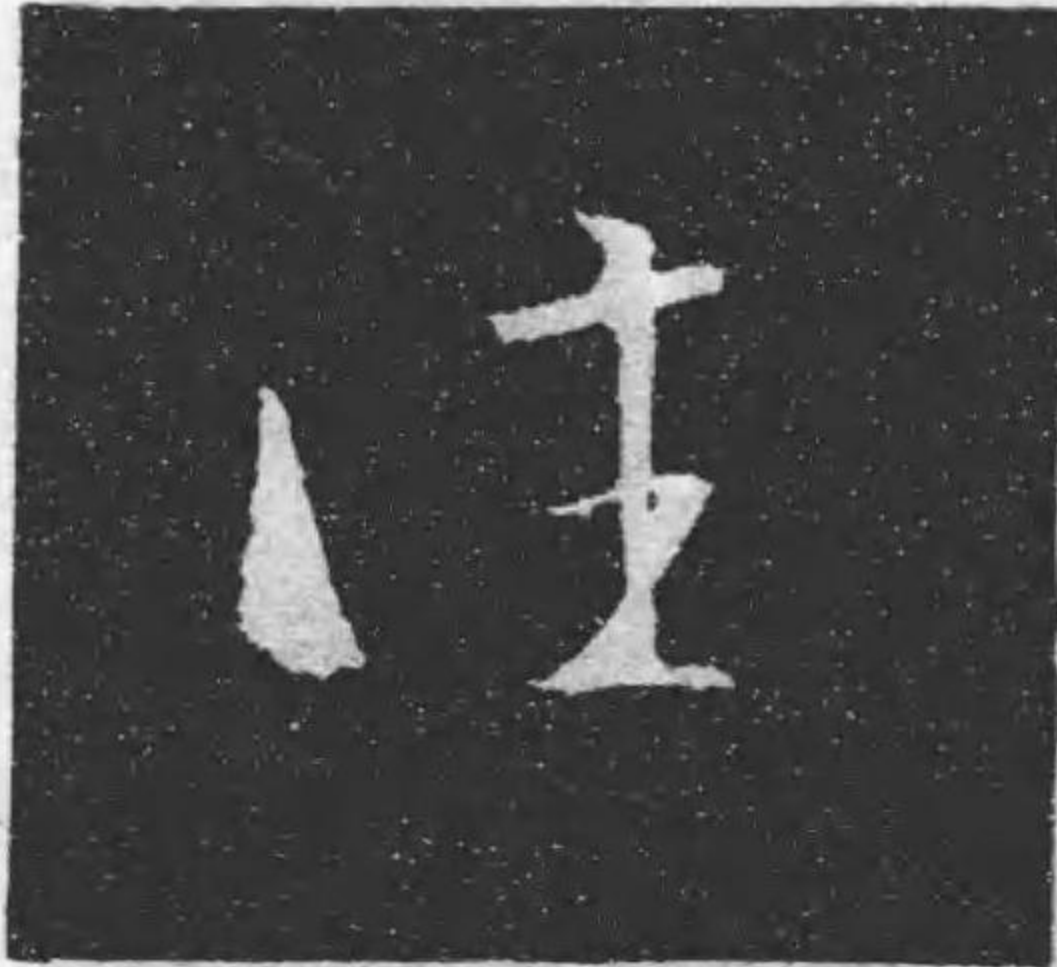
十一頁の初行二字目にあり  
截断の点を比較のこま



十一頁の二行二字目にありこの方自然  
の如し一方は截断のためなり

十一頁の終にあり同前

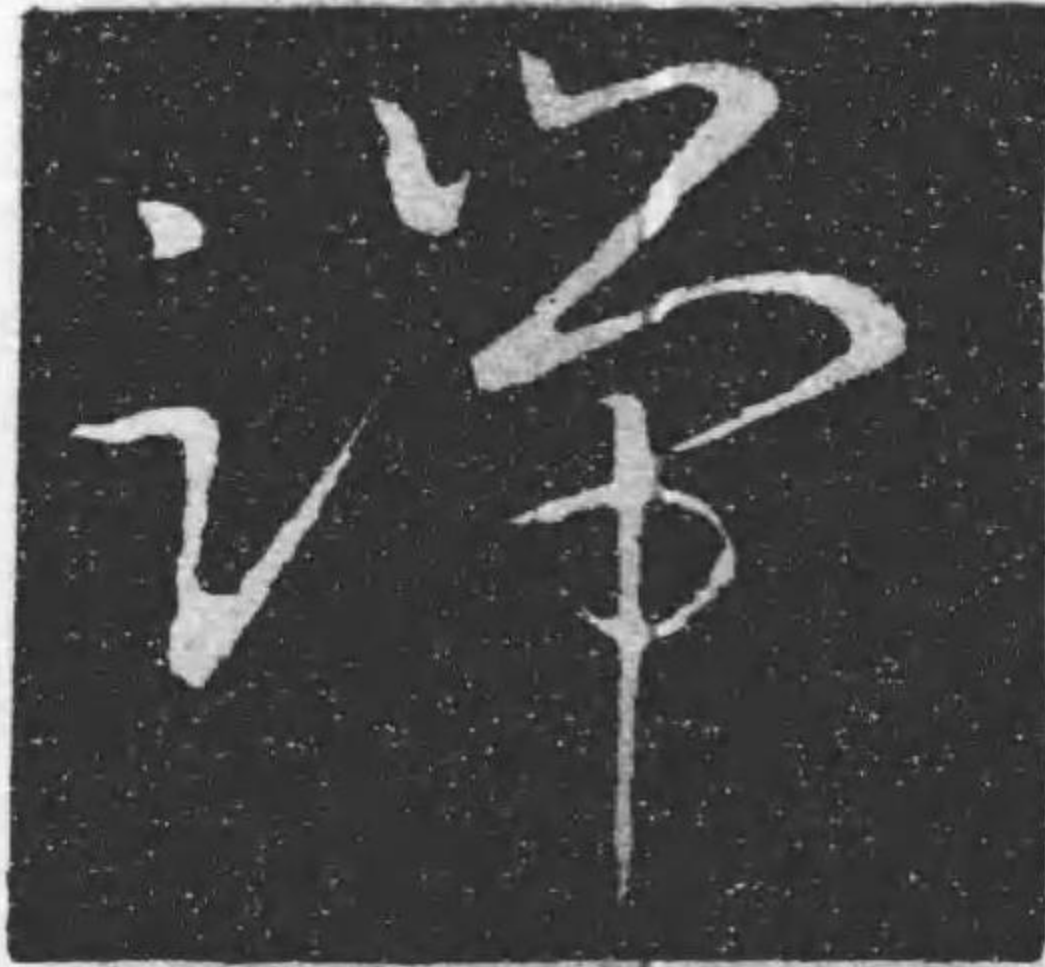
十二頁初行三字目にあり同前



十二頁二行初にあり旁の点この方自然

十三頁の初にあり点截断の点に注意

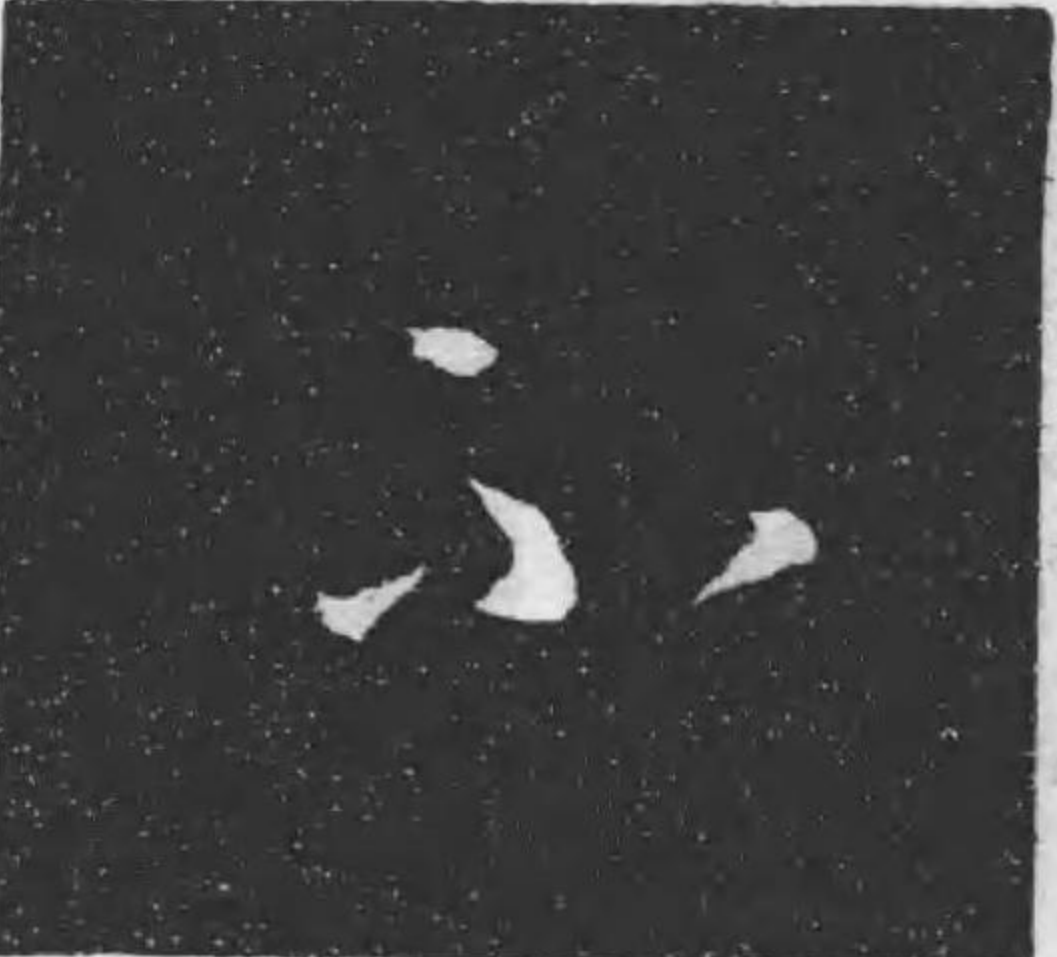
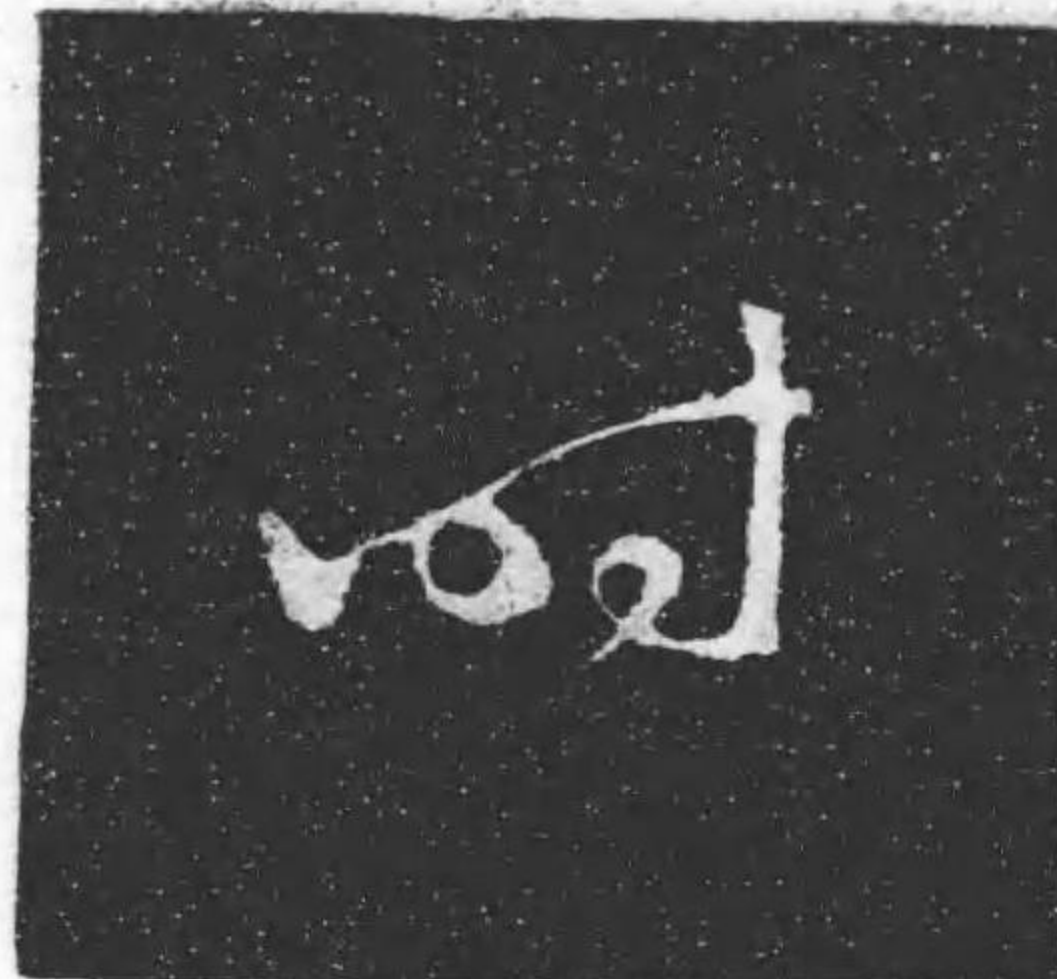
十三頁の二行二字目にあり同前



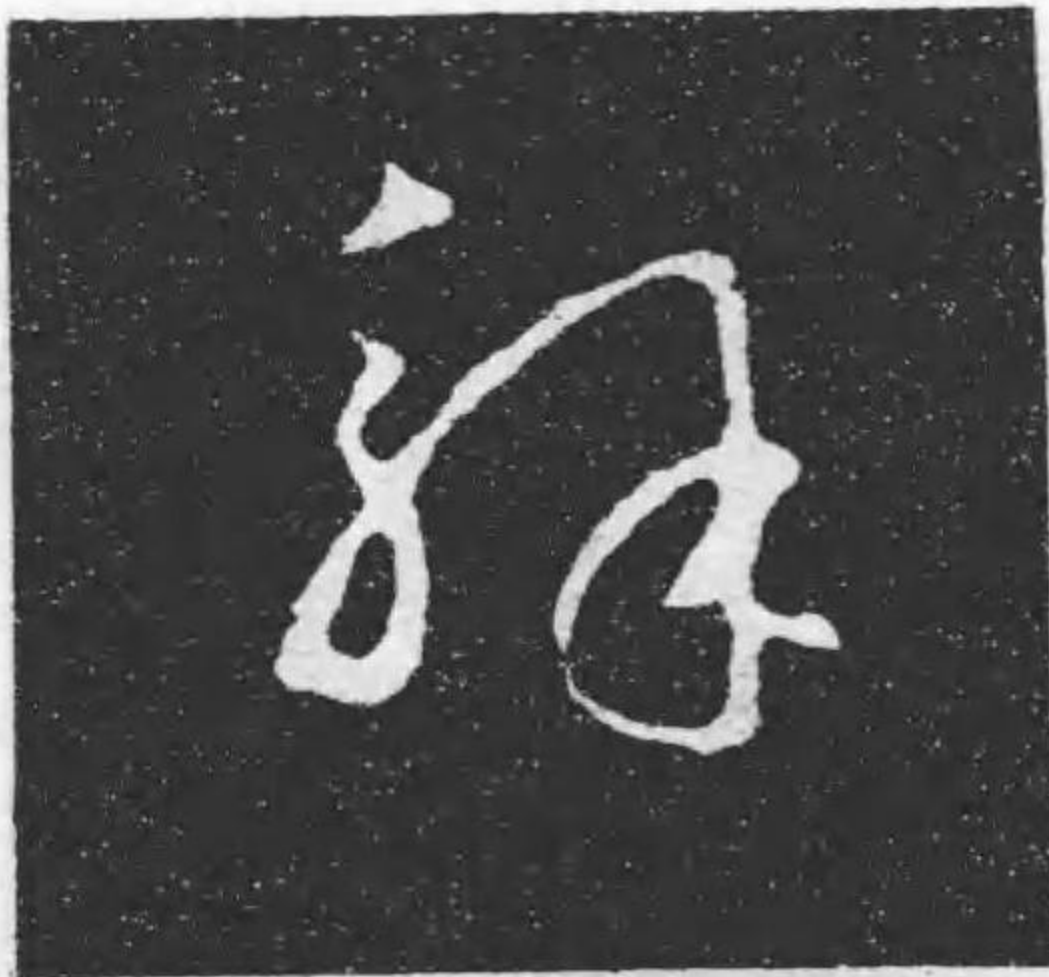
十四頁初行二字目にありこの方自然か

十四頁の初行三字目にあり  
起筆を比較のこま

十四頁の初行五字目にあり  
截断の点に注意



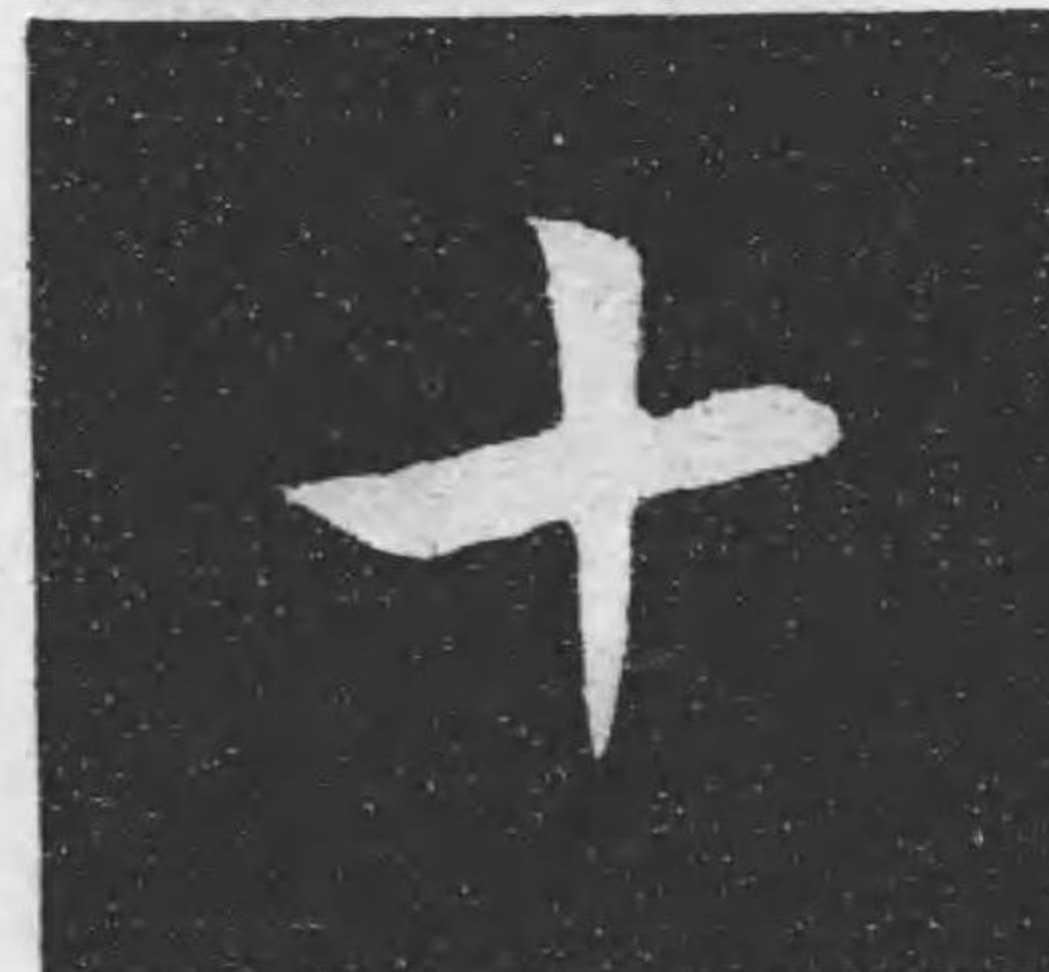




十四頁の二行目最初にありこの方温健



十六頁の二行目の二丁目にありこの方面白し



十六頁の二行目の三丁目にありこの方起筆自然



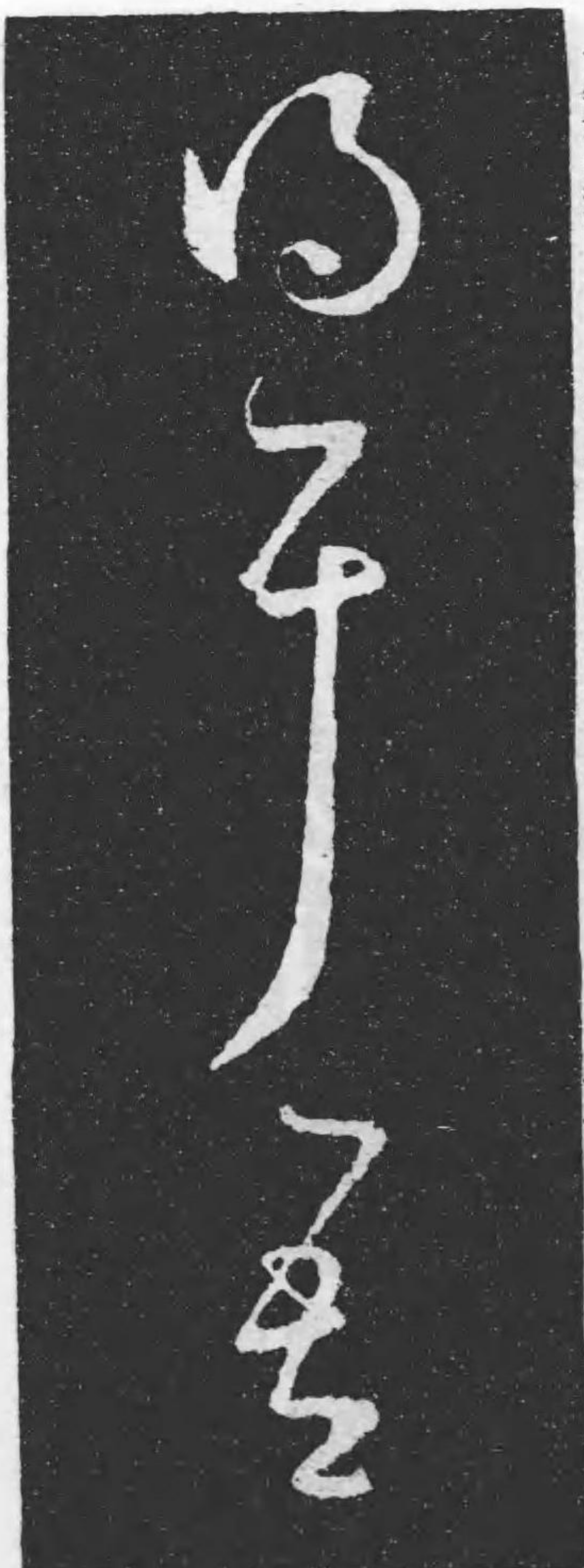
十七頁の初行四丁目にありこの方よし



十七頁の二行二丁目にありこの方變化あり



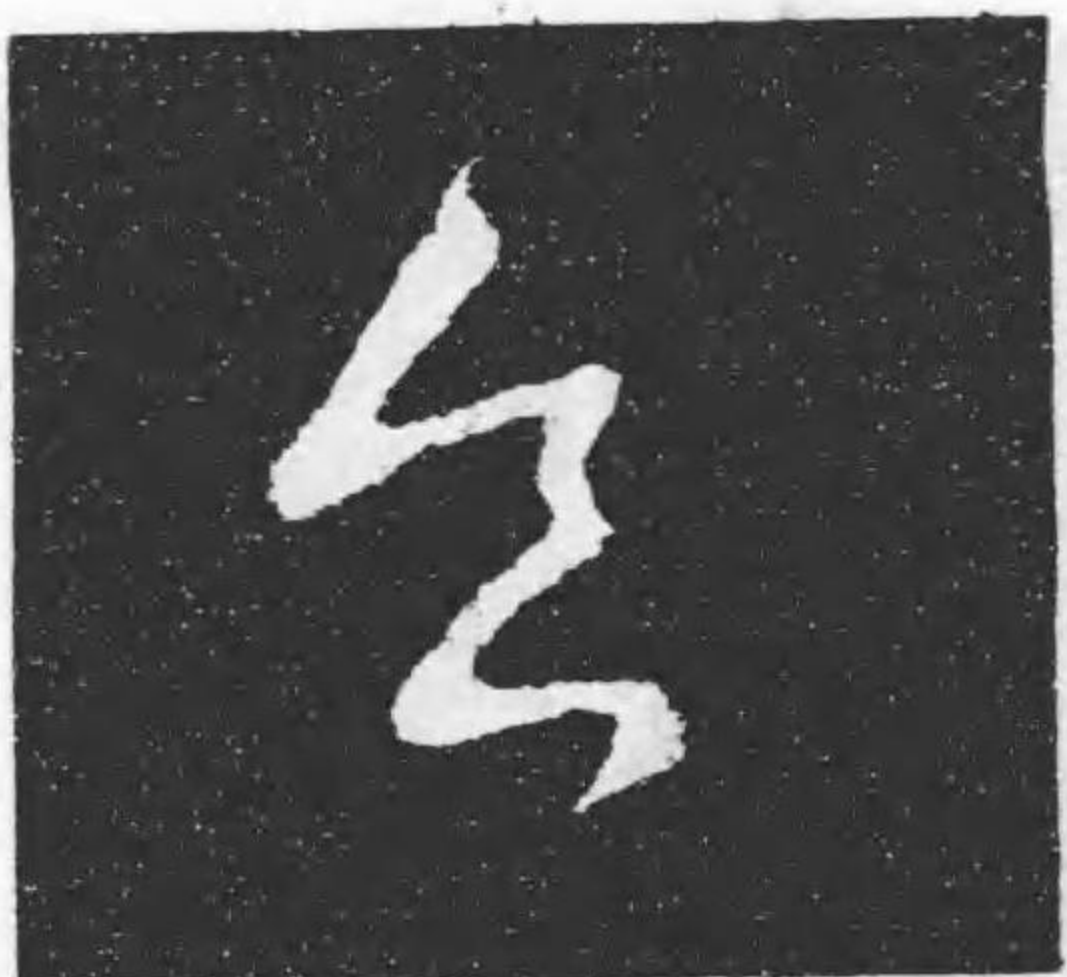
十八頁の最初にありこの方一劃多し



十八頁の二行初にありこの方自然

十八頁の二行終にあり同前

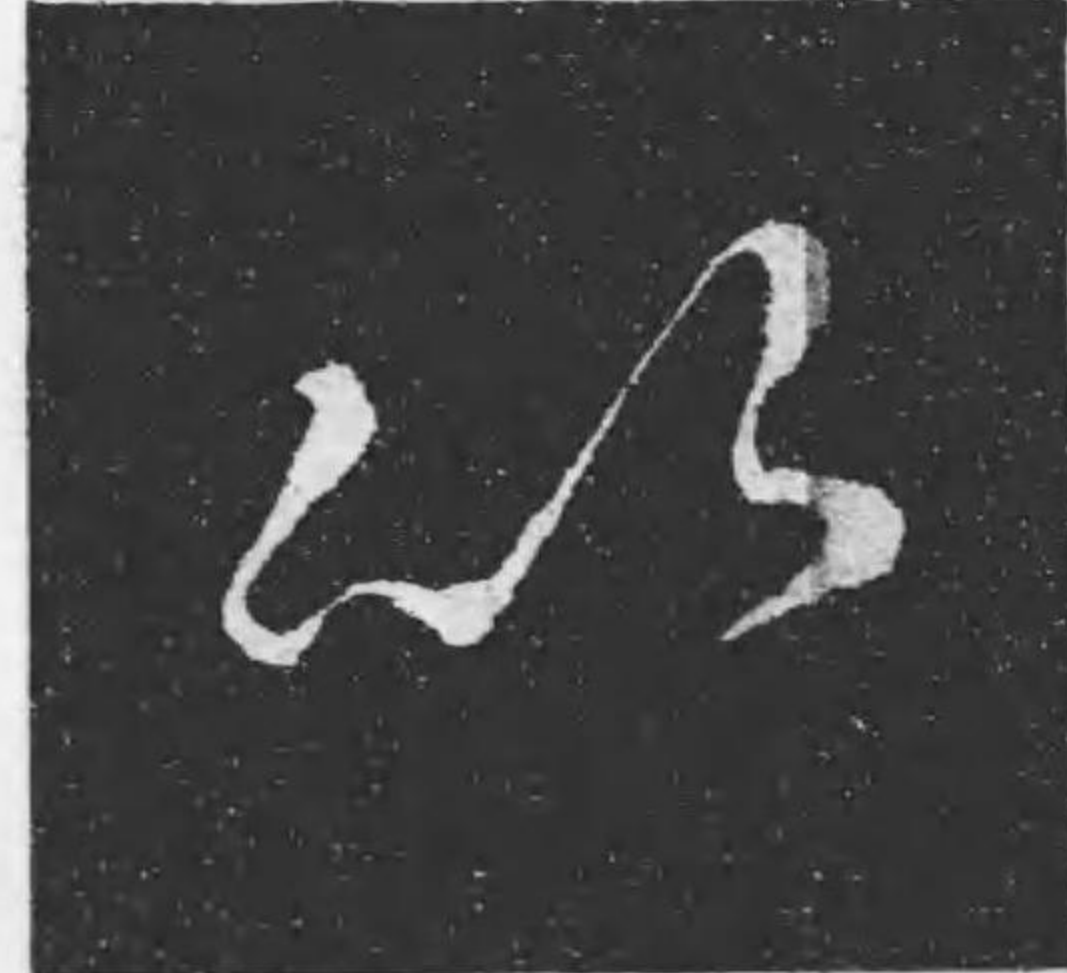
十九頁の二行目四丁目にありこの方よし



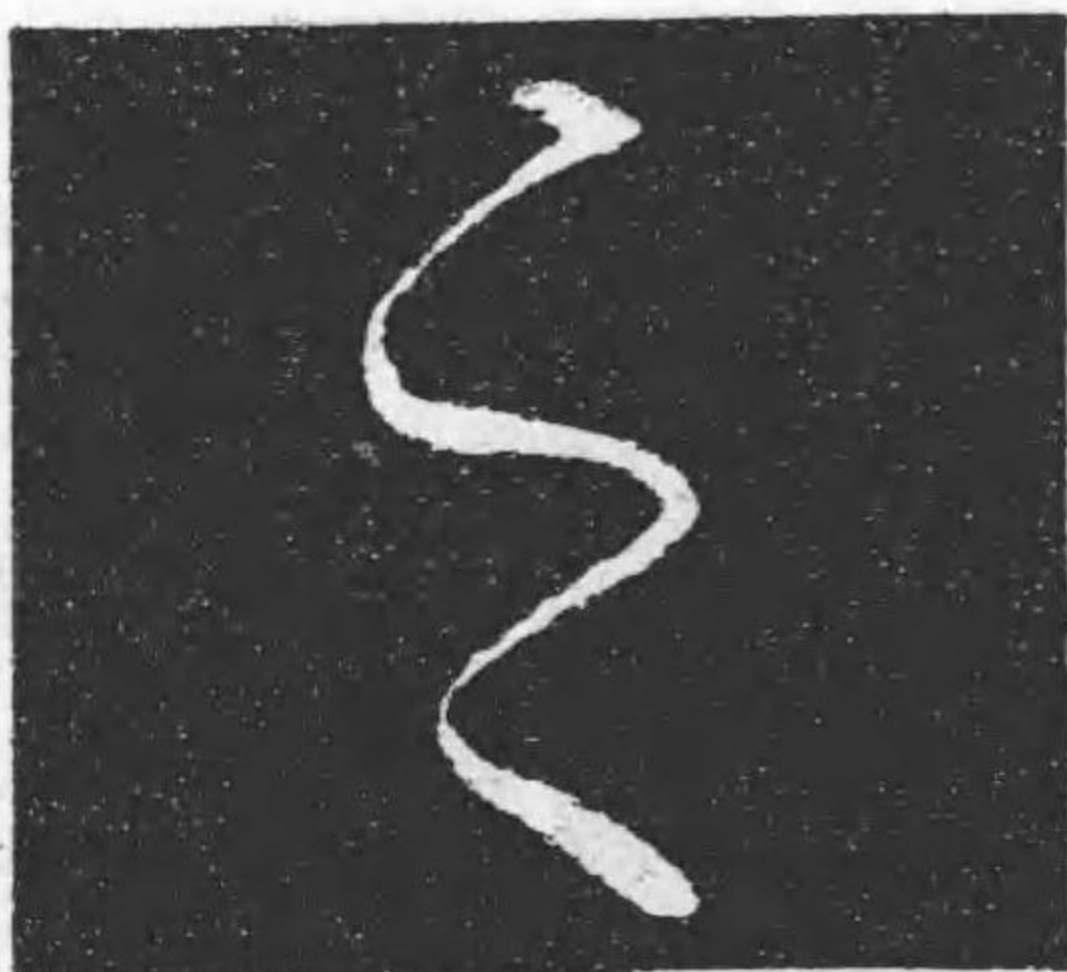
二十一頁の初にありこの方自然



二十一頁の二行目の初にあり同前



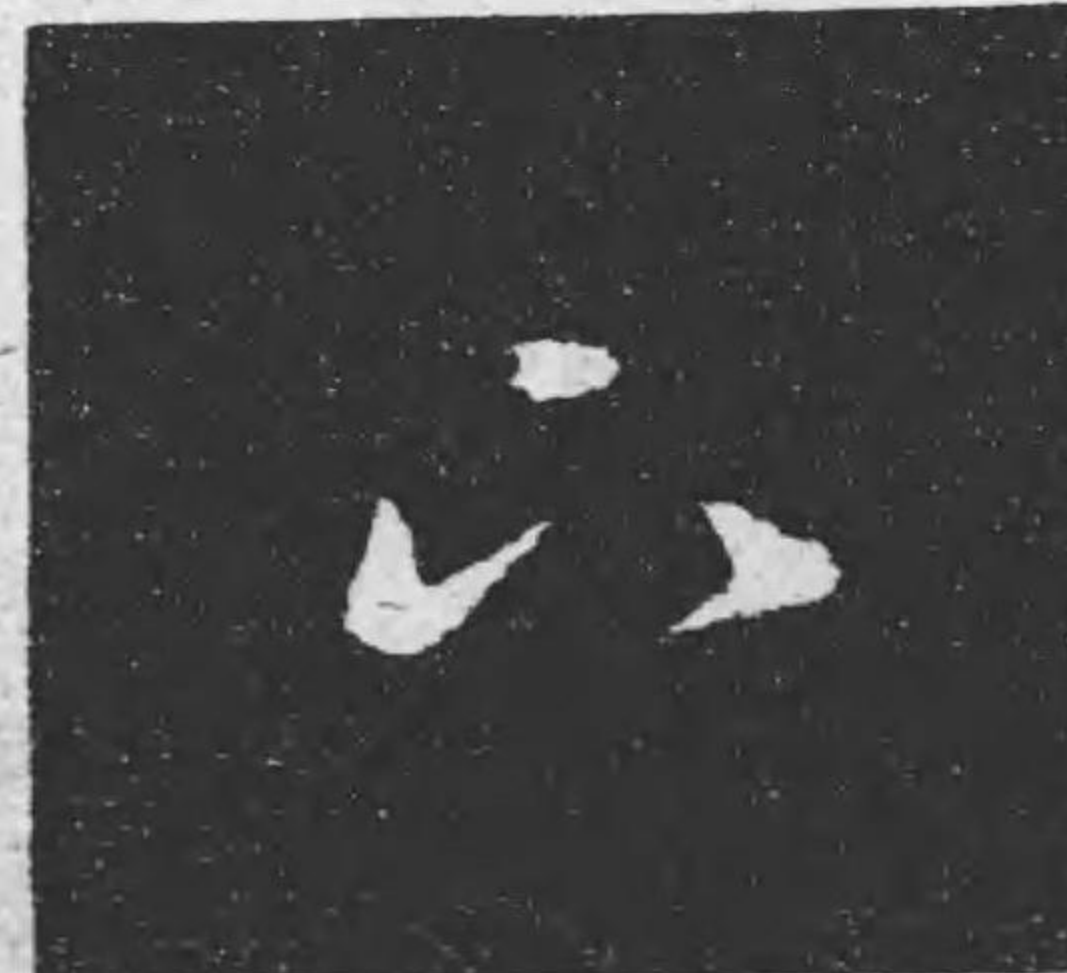
二十一頁の終にありこの方變化あり



二十一頁の初にあり同前



二十一頁の二行四丁目にありこの方自然



二十二頁の終にあり同前



二十二頁の一行二丁目にありこの方温雅



二十二頁の一行の終にあり同前



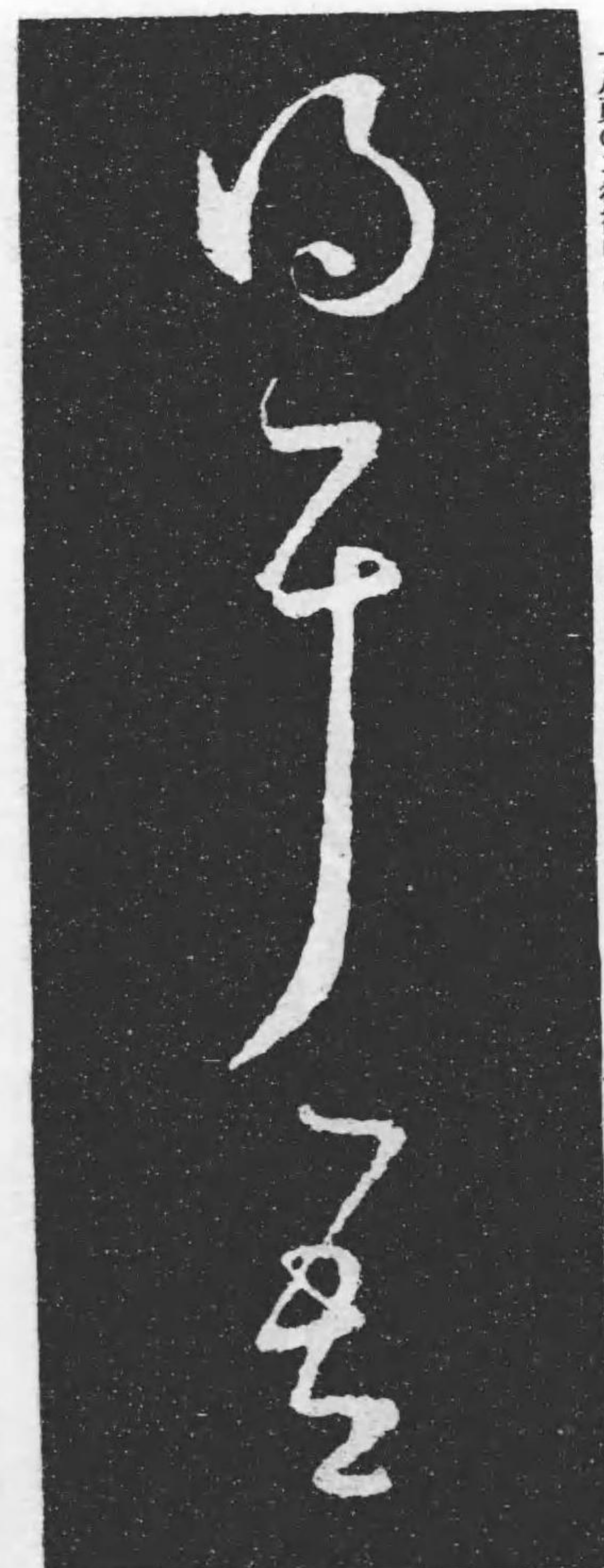
二十五頁の二行初にあり同前



十八頁の二行初にありこの方自然

十八頁の二行終にあり 同前

十九頁の二行目四字目にあり  
この方よし



二十一頁の初にありこの方自然

二十一頁の二行目の初にあり 同前

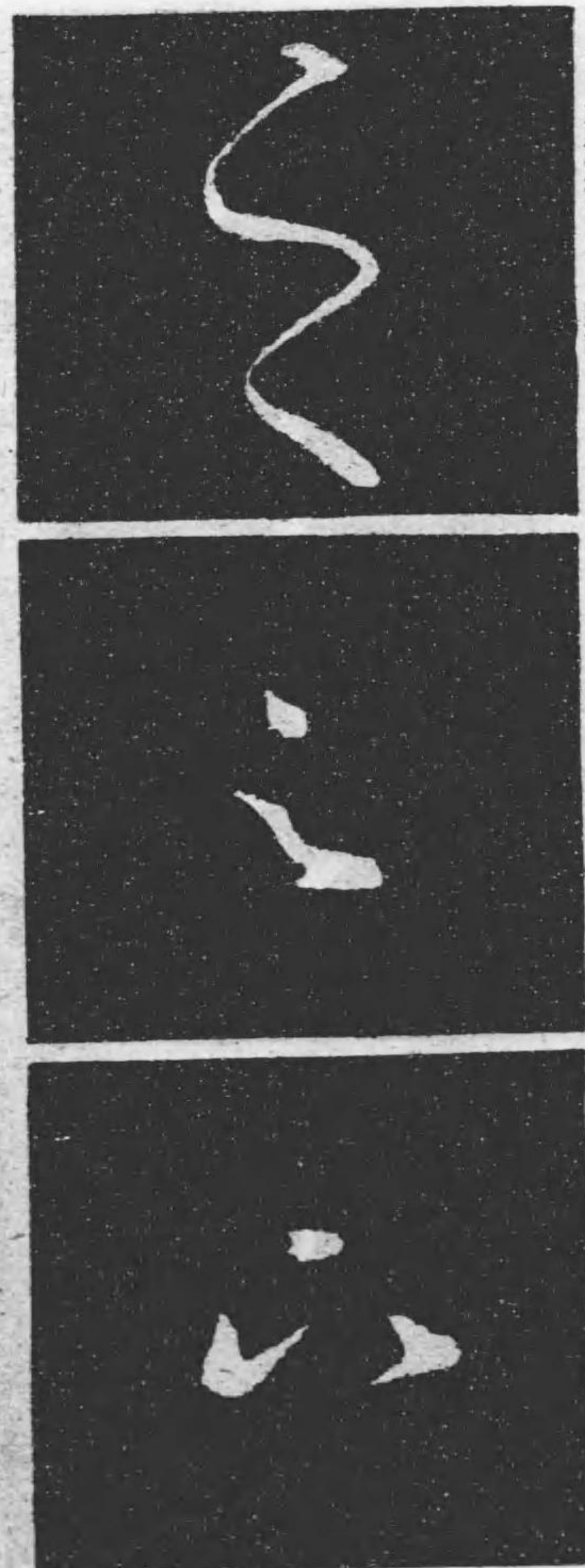
二十一頁の終にありこの方變化あり



二十一頁の初にあり 同前

二十一頁の二行四字目にあり  
この方自然

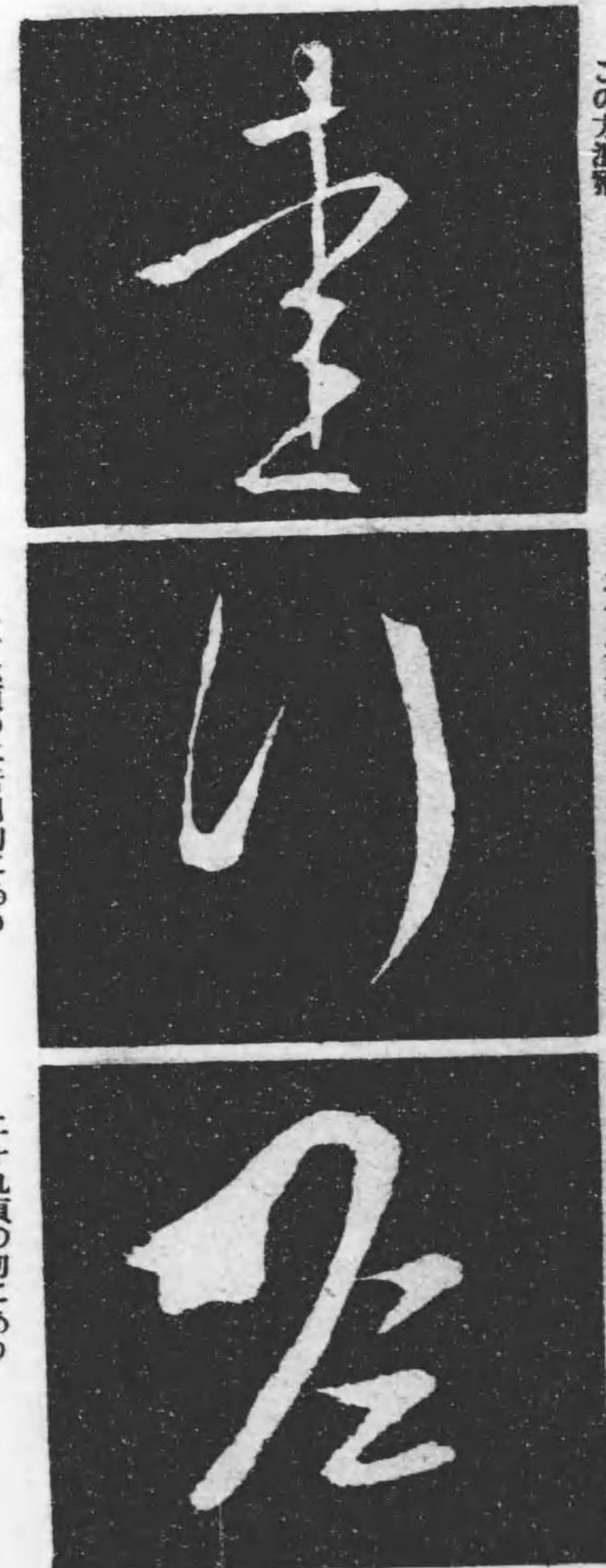
二十一頁の終にあり 同前



二十二頁の一行二丁目にあり  
この方濶雅

二十二頁の一行の終にあり 同前

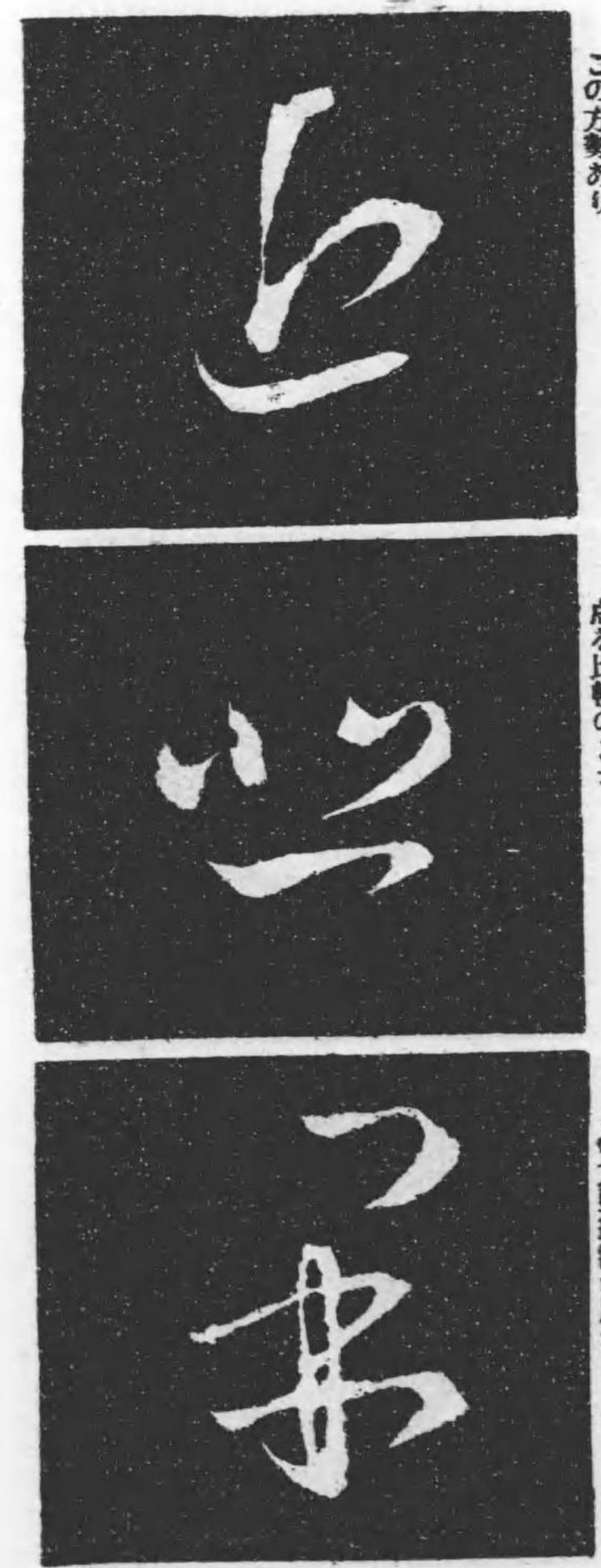
二十五頁の二行初にあり 同前



二十五頁の二行二丁目にあり  
この方勢あり

二十六頁の二行目初にあり  
点を比較のこみ

二十九頁の初にあり  
この方堅割れ居れり



三十頁の初にあり  
この方点割に變化あり

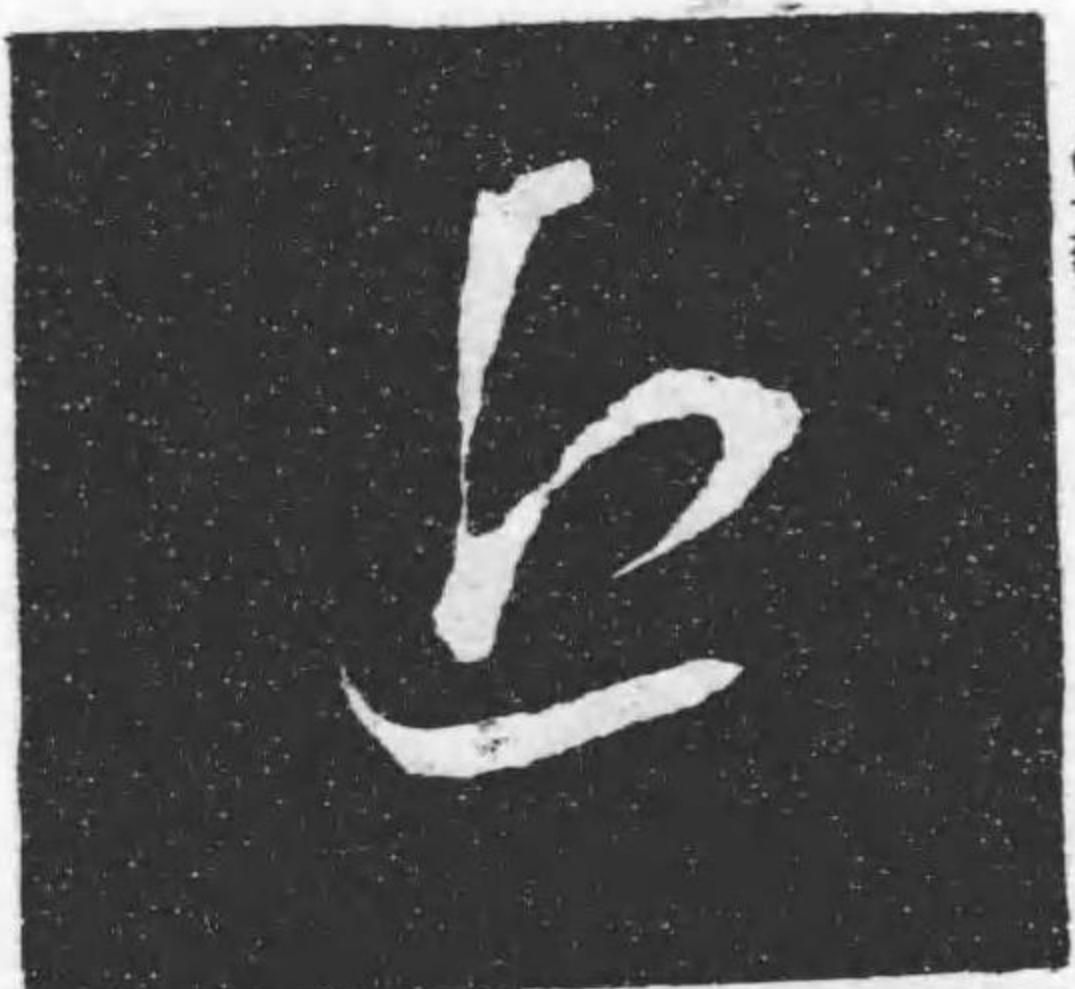
三十頁の初行三字目にあり  
結構を比較のこみ

二十九頁の二行二丁目にあり  
この方筆割れ居れり





二十五頁の二行二字目にあり  
この方勢あり



二十六頁の二行目初にあり  
点を比較のこゝ



二十九頁の初にあり  
この方筆劃割れ居れり



三十頁の初にあり  
この方点劃に變化あり



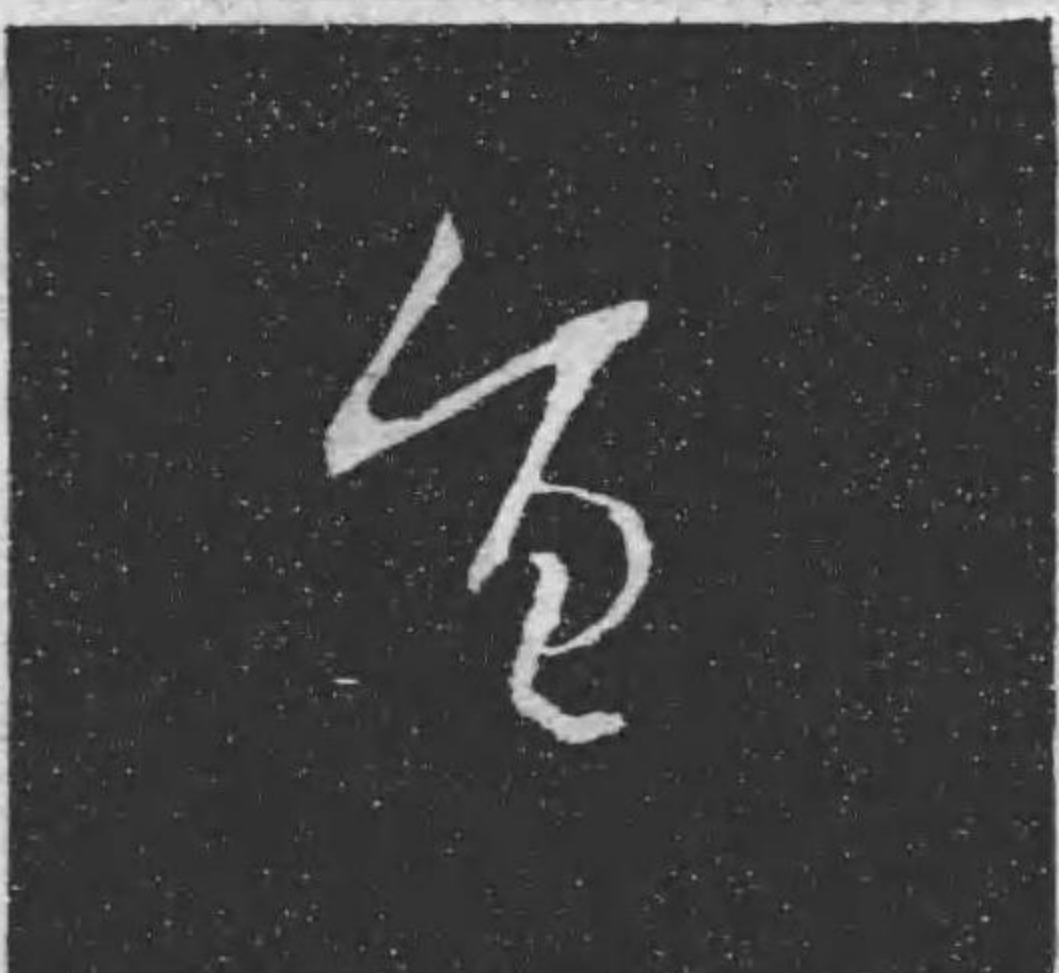
三十頁の初行三字目にあり  
結構を比較のこゝ

二十九頁の二行二字目にあり  
この方筆劃割れ居れり

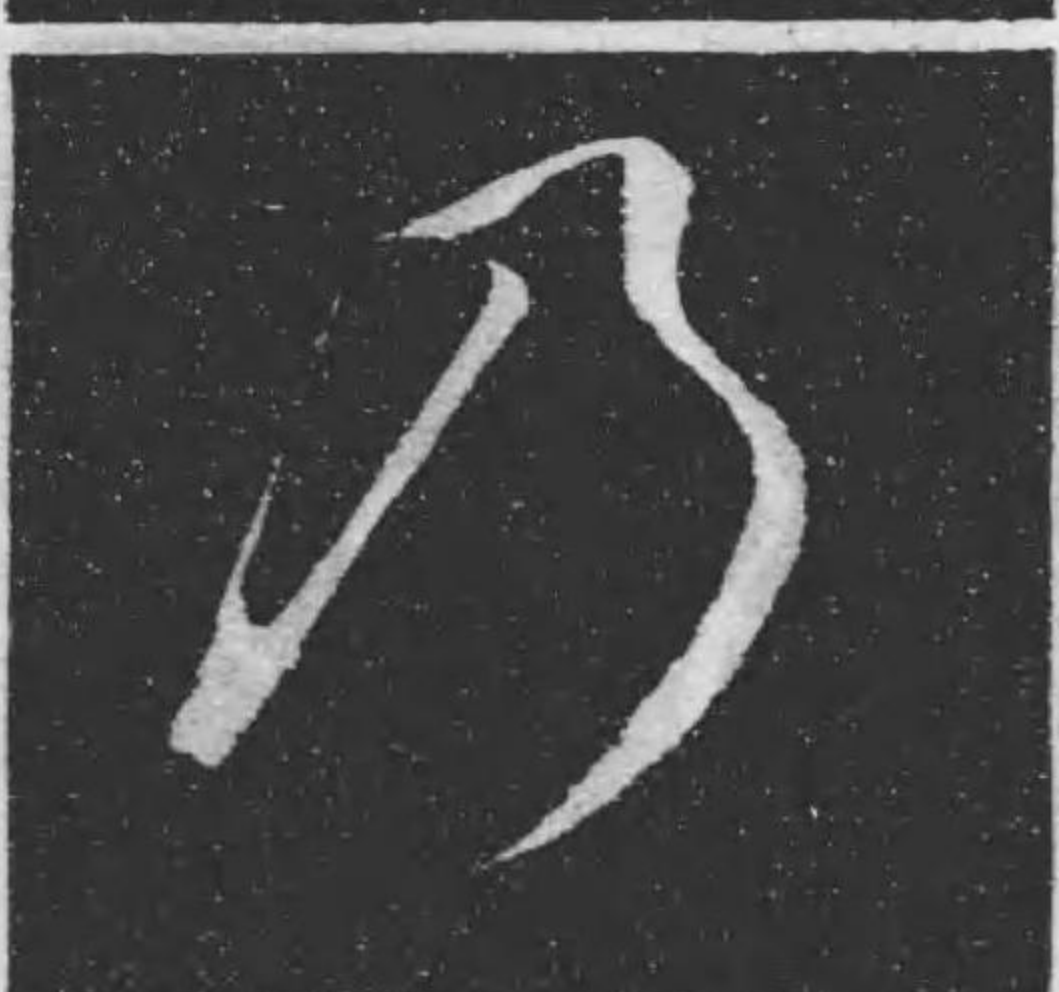
三十頁の終にあり  
この方變化あり



三十二頁の初行二字目にあり  
結構を比較のこゝ



三十四頁の二行目の初にあり  
この方温雅



三十四頁の終にあり  
勾ミ点に注意



三十五頁の初行二字目にあり  
この方割れぬ点に注意

三十六頁の初行三字目にあり  
比較のこゝ

三十六頁の終にあり  
この方自然



三十九頁の初行三字目にあり  
比較のこゝ



四十七頁の終にあり  
この方連綿面白し



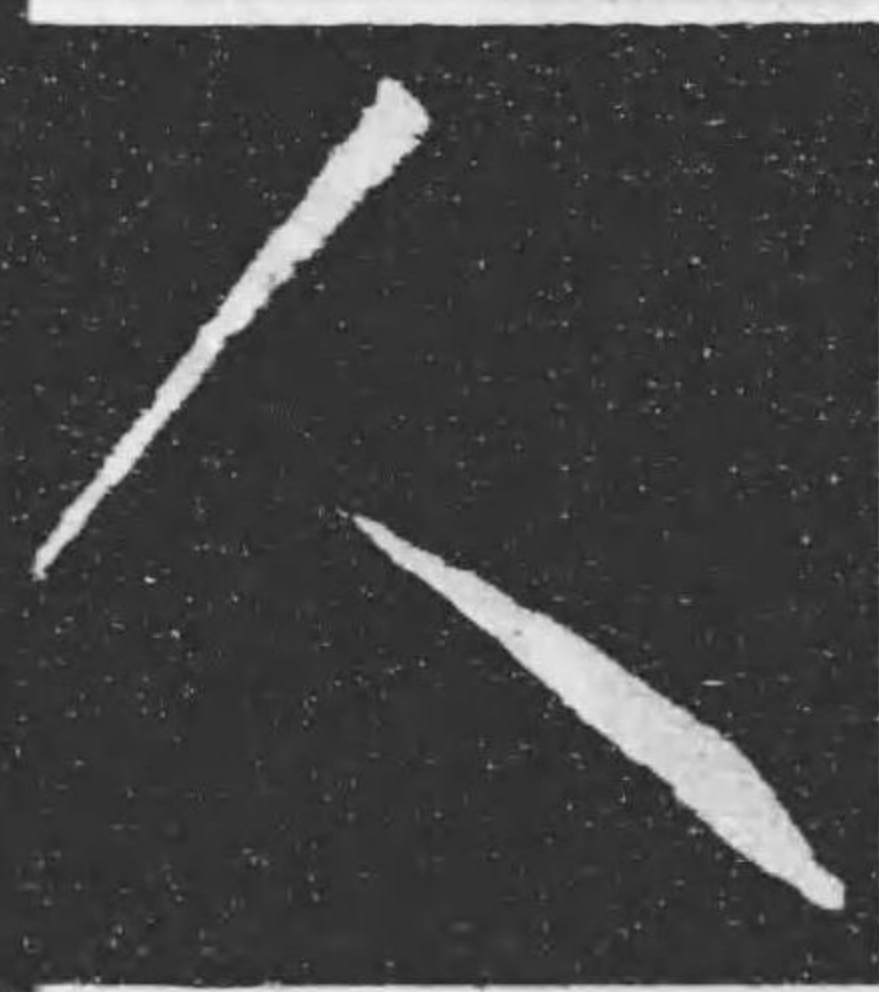
四十九頁の二行目の初にあり  
この方自然



五十四頁の二行目の三字目にあり  
同前



五十五頁の終にあり  
この方字體よしされど眞蹟本は  
この字の方ならざる如し

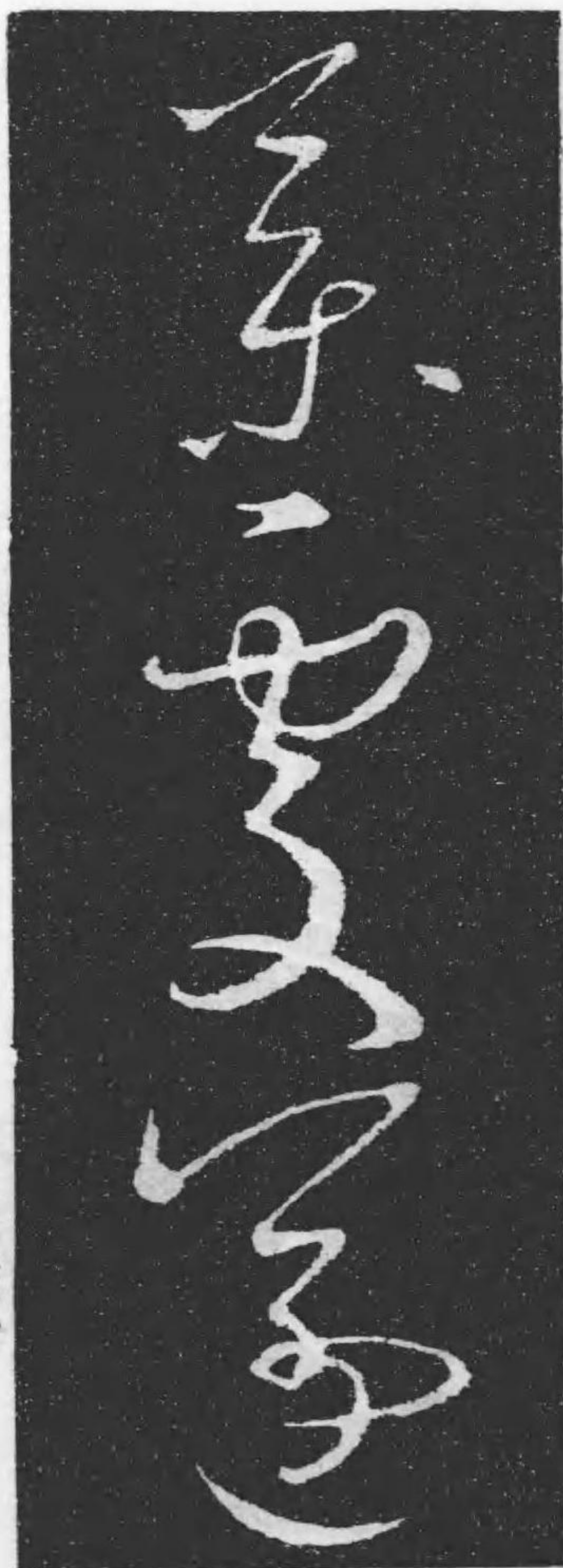




三十四頁の終にあり  
勾ミ点に注意

三十五頁の初行二字目にあり  
この方割れぬ点に注意

三十六頁の初行三字目にあり  
比較のこミ



三十六頁の終にあり  
この方自然

三十九頁の初行三字目にあり  
比較のこミ

四十七頁の終にあり  
この方連綿面白し



四十九頁の二行目の初にあり  
この方自然

五十四頁の二行目の三字目にあり  
同前

五十五頁の終にあり  
この方字體よしされき眞蹟本は  
この字の方ならざる如し



五十八頁の二行三字目にありこ  
この方自然

五十八頁の終にあり  
扁を比較のこミ

六十二頁の二行三字目にあり点  
に注意



六十五頁の初行二字目にあり  
この方力あり

六十五頁の二行二字目にあり  
同前

六十五頁の二行三字目にあり  
同前





六十七頁の初行二字目にあり  
兩方比較のこみ



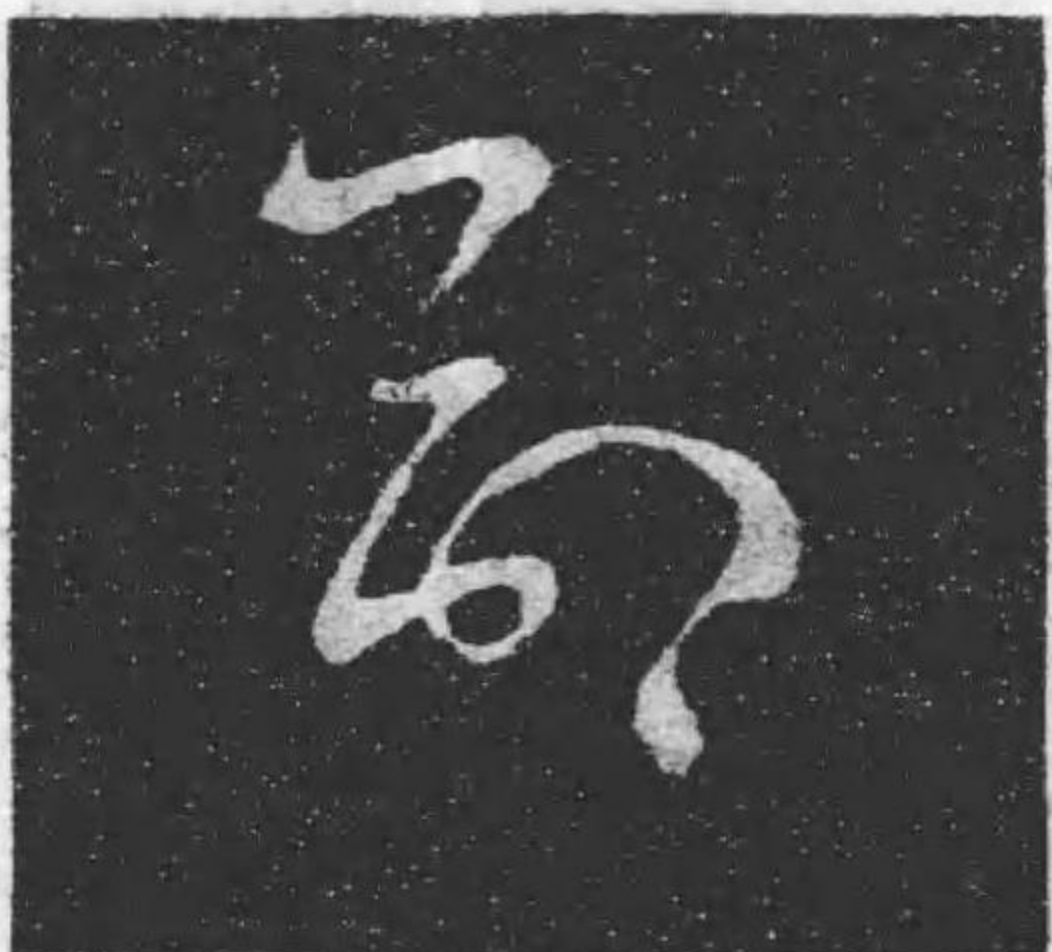
六十八頁の初にあり  
扁の斷接に注意



六十八頁の初行の終にあり  
この方變化あり



六十九頁の初行の終にあり  
收筆を比較のこみ



七十一頁の二行三字目にあり扁  
の斷接に注意のこみ



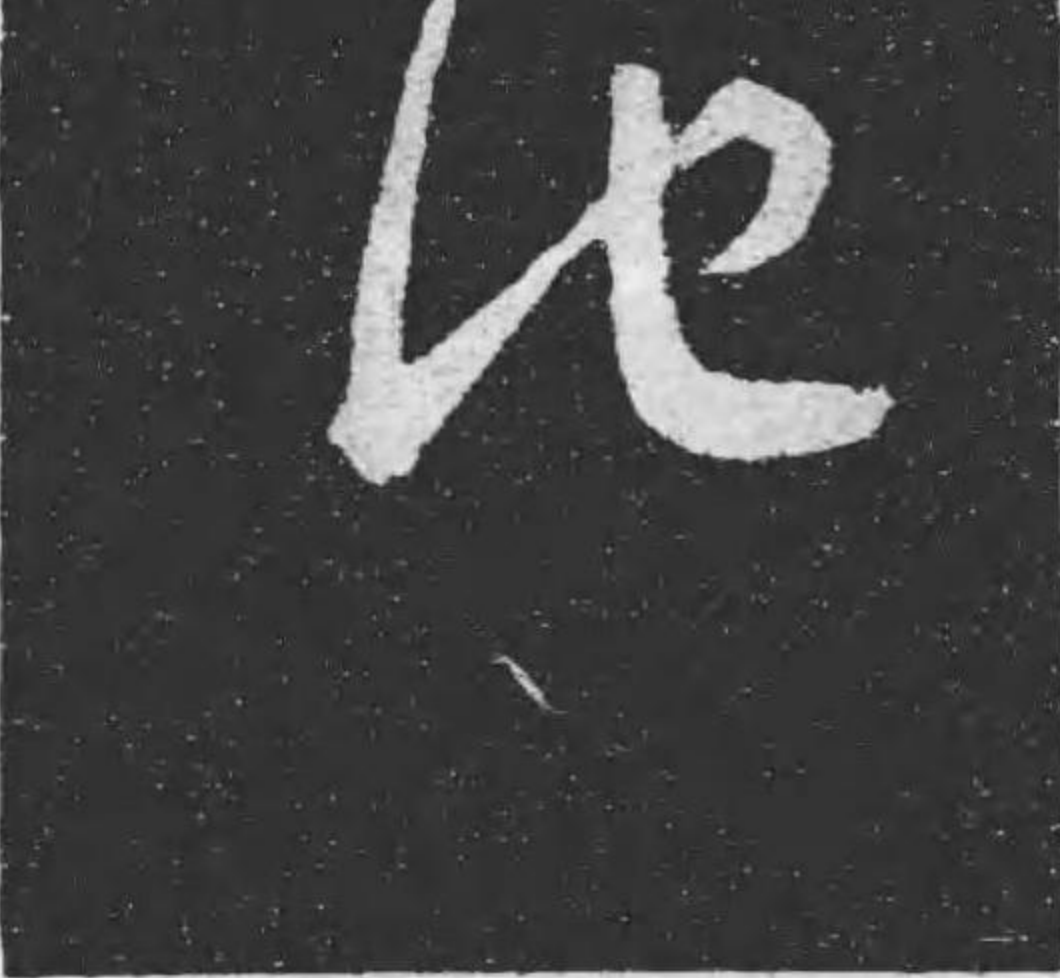
七十二頁の初行の終にあり  
兩方比較のこみ



七十五頁の初にあり  
点この方よし



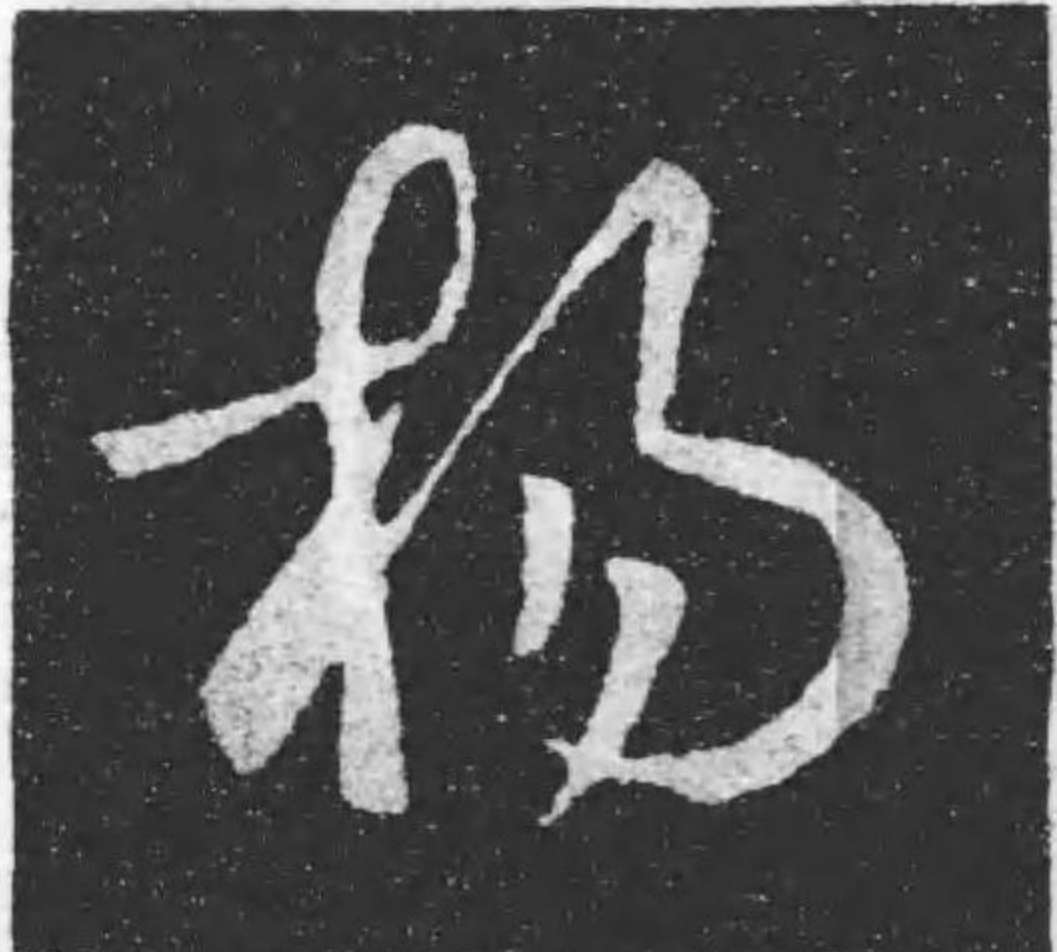
七十五頁の初行二字目にあり  
この方溫健



七十六頁の扁を  
兩方比較のこみ



七十七頁の初行四字目にあり  
扁この方自然



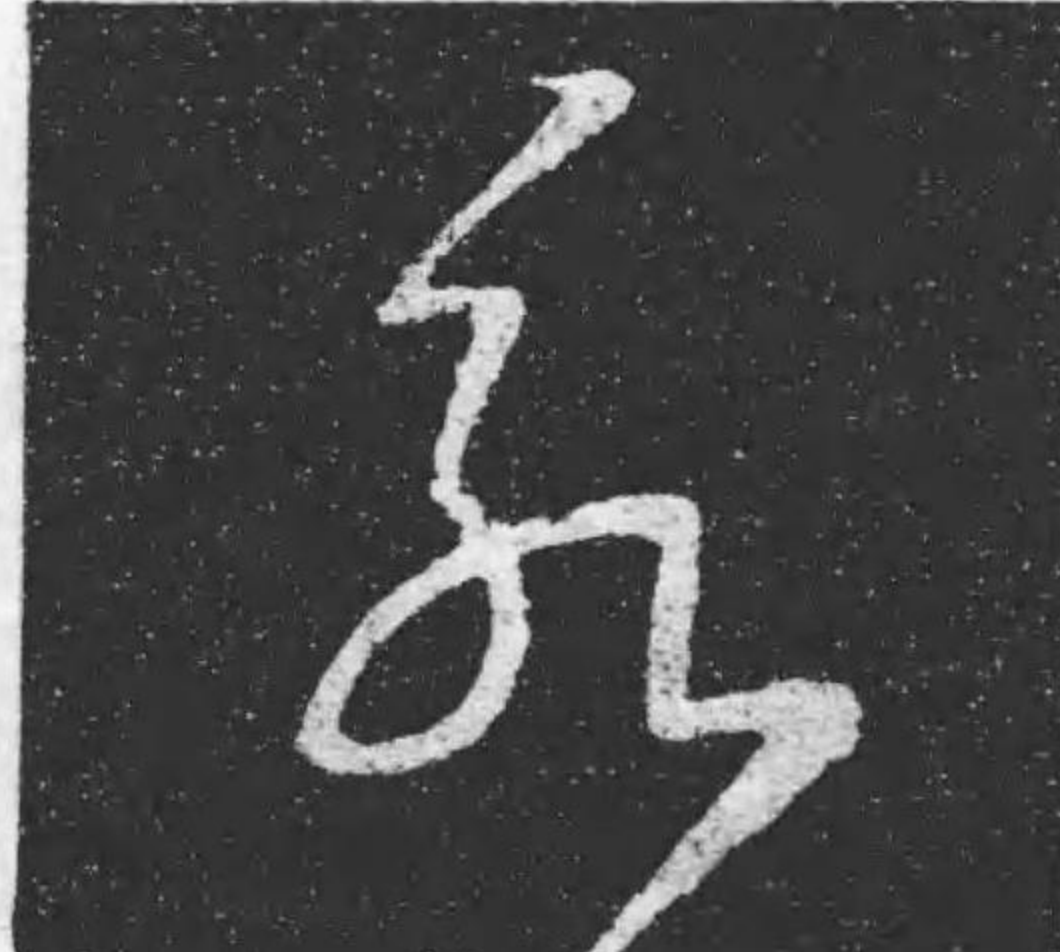
七十八頁の二行二字目にあり  
二字連綿に注意



七十九頁の初行二字目にあり  
二字の連綿に注意



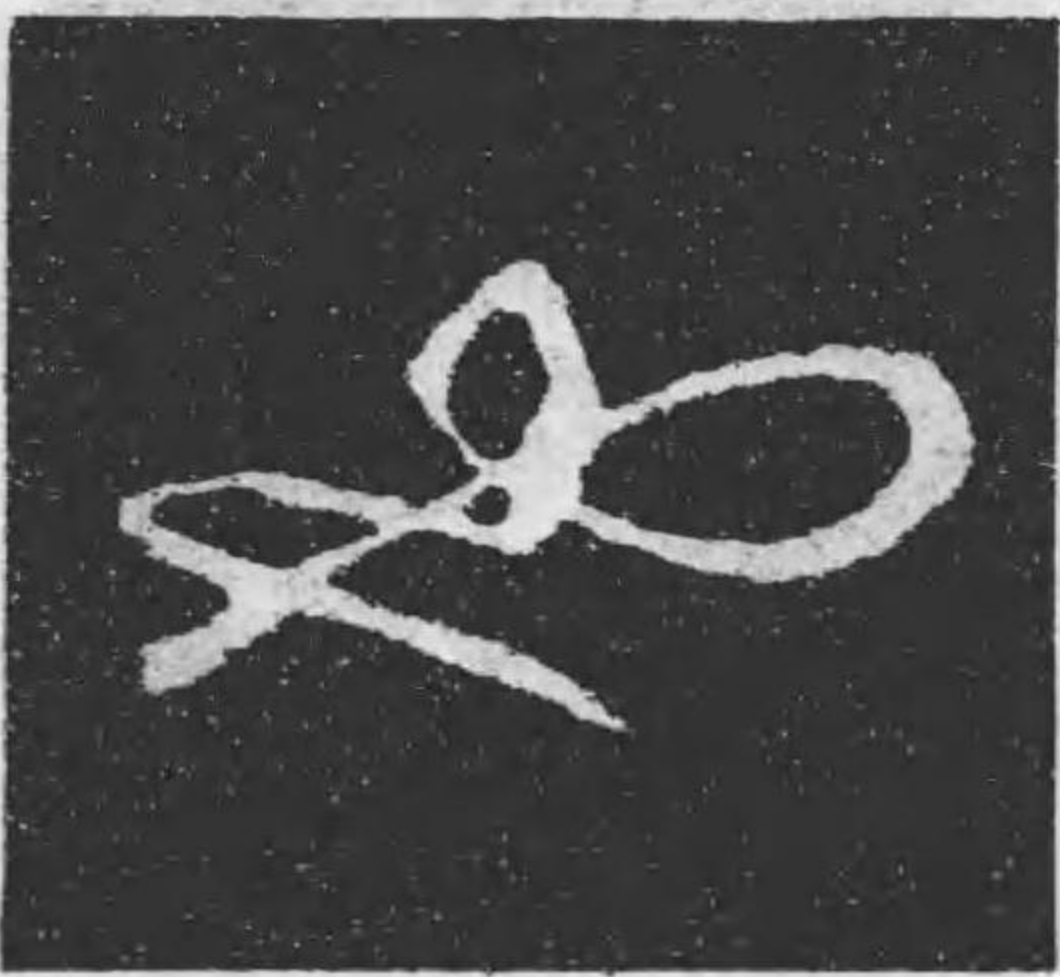
七十九頁の終にあり  
連綿この方面白し



八十四頁の初行二字目にあり  
この方正し



八十六頁の初行三字目にあり連  
綿に注意



八十六頁の初行四字目にあり  
終筆に注意



七十五頁の初にあり  
点この方よし

七十五頁の初行二字目にあり  
この方温健

七十六頁の篇を  
兩方比較のこし



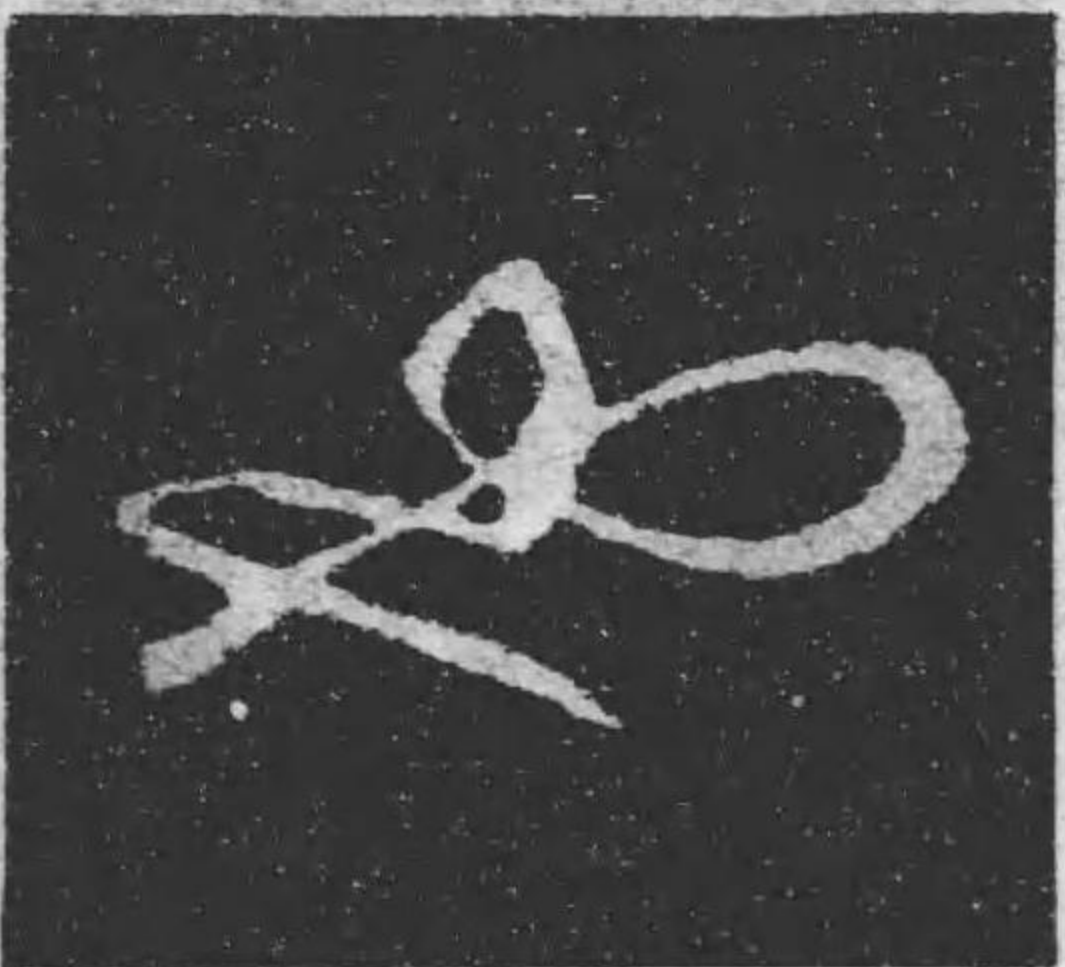
七十七頁の初行四字目にあり  
屬この方自然

七十八頁の二行二字目にあり  
二字連綿に注意



七十九頁の初行二字目にあり  
二字の連綿に注意

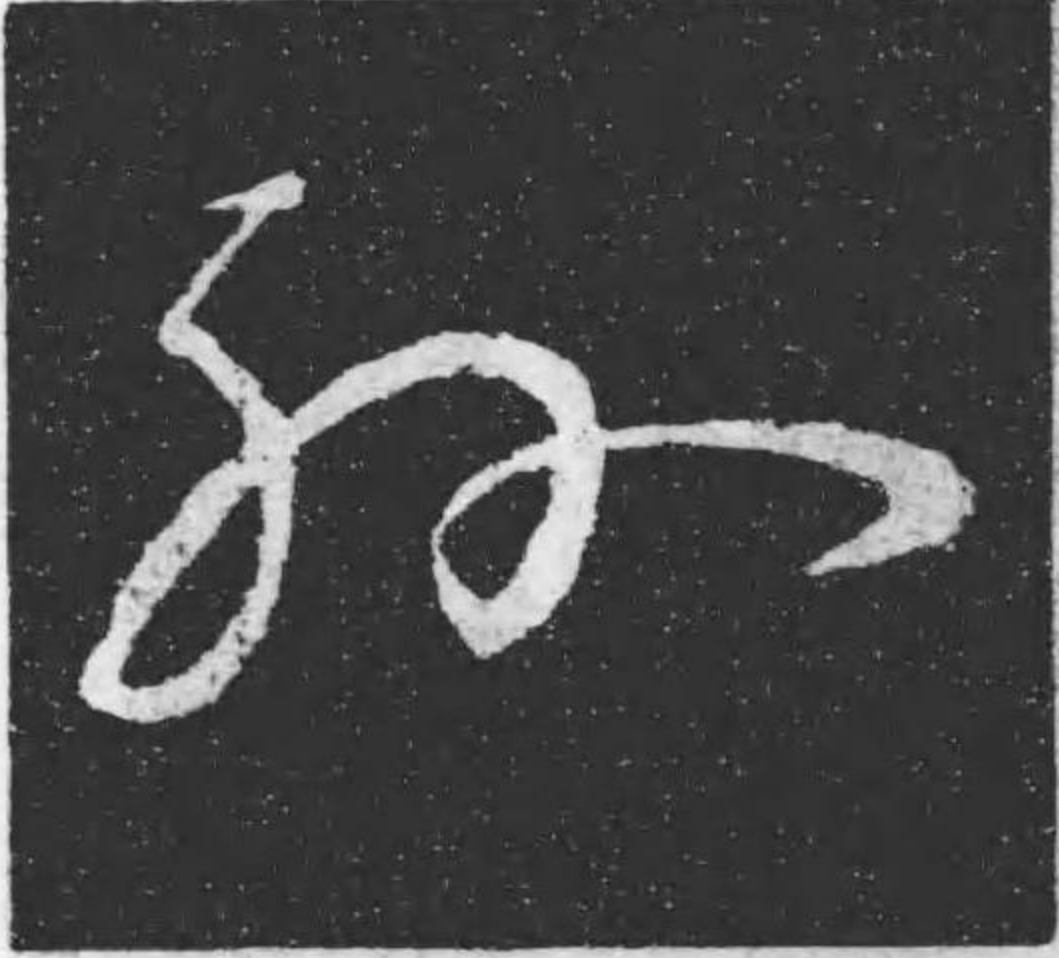
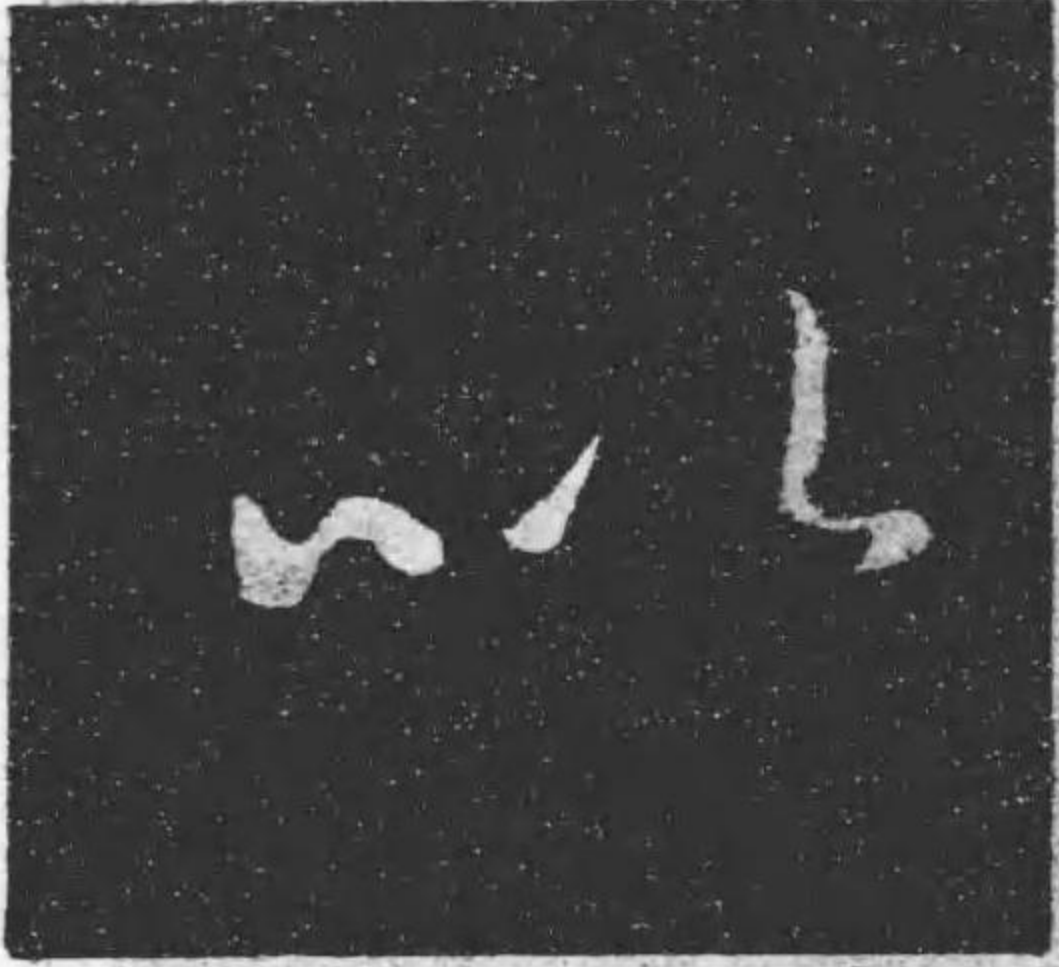
七十九頁の終にあり  
連綿この方面白し



八十四頁の初行二字目にあり  
この方正し

八十六頁の初行三字目にあり連綿に注意

八十六頁の初行四字目にあり  
終筆に注意



八十九頁の初行三字目にあり  
この方割れ目なし

九十三頁の初行三字目にあり  
終劃の違ひに注意

九十三頁の終にあり  
兩方の結構に注意



九十六頁の初にあり  
篇を比較のこし

一〇〇頁の二行二字目にあり起筆を比較のこし

一〇八頁の二行目の初にあり  
篇を比較のこし





八十九頁の初行三字目にあり  
この方割れ目なし

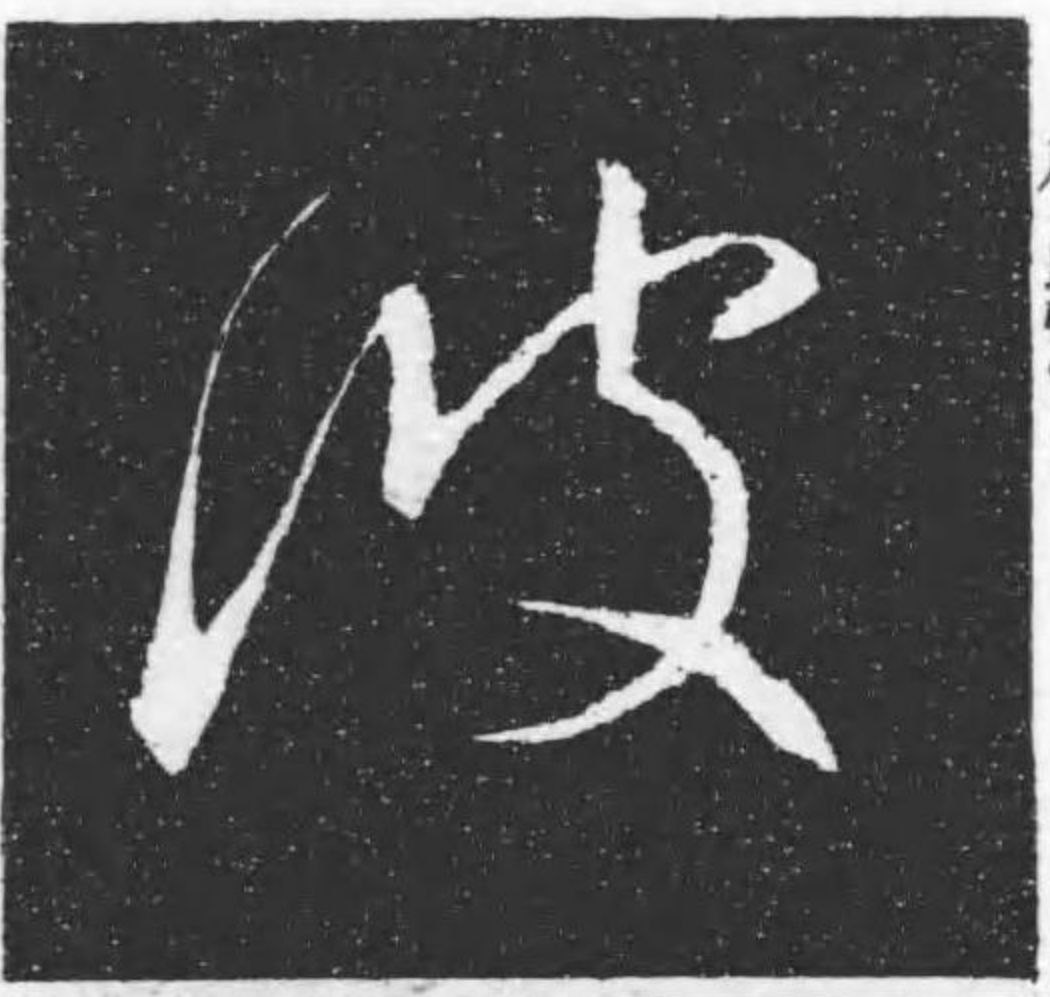


九十三頁の初行二字目にあり  
終刺の違ひに注意

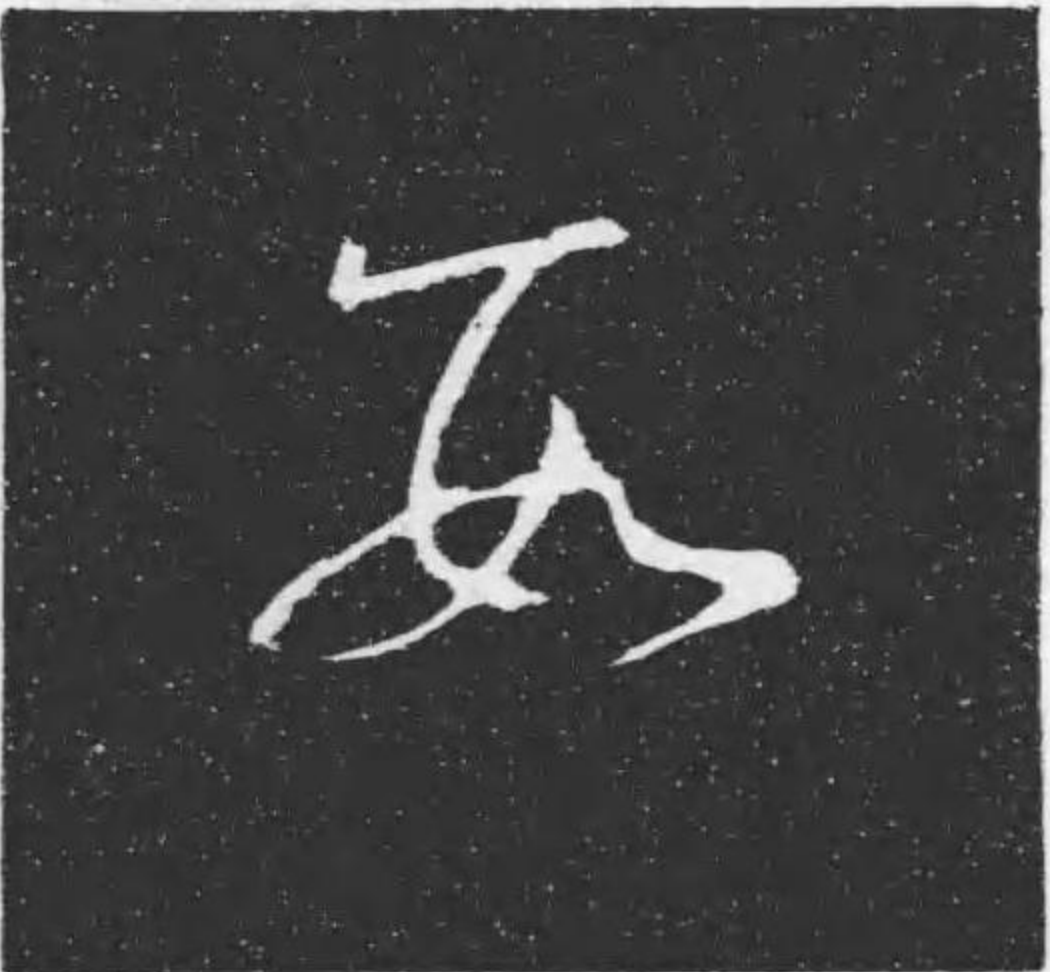


九十三頁の終にあり  
兩方の結構に注意

九十六頁の初にあり  
扁を比較のこし



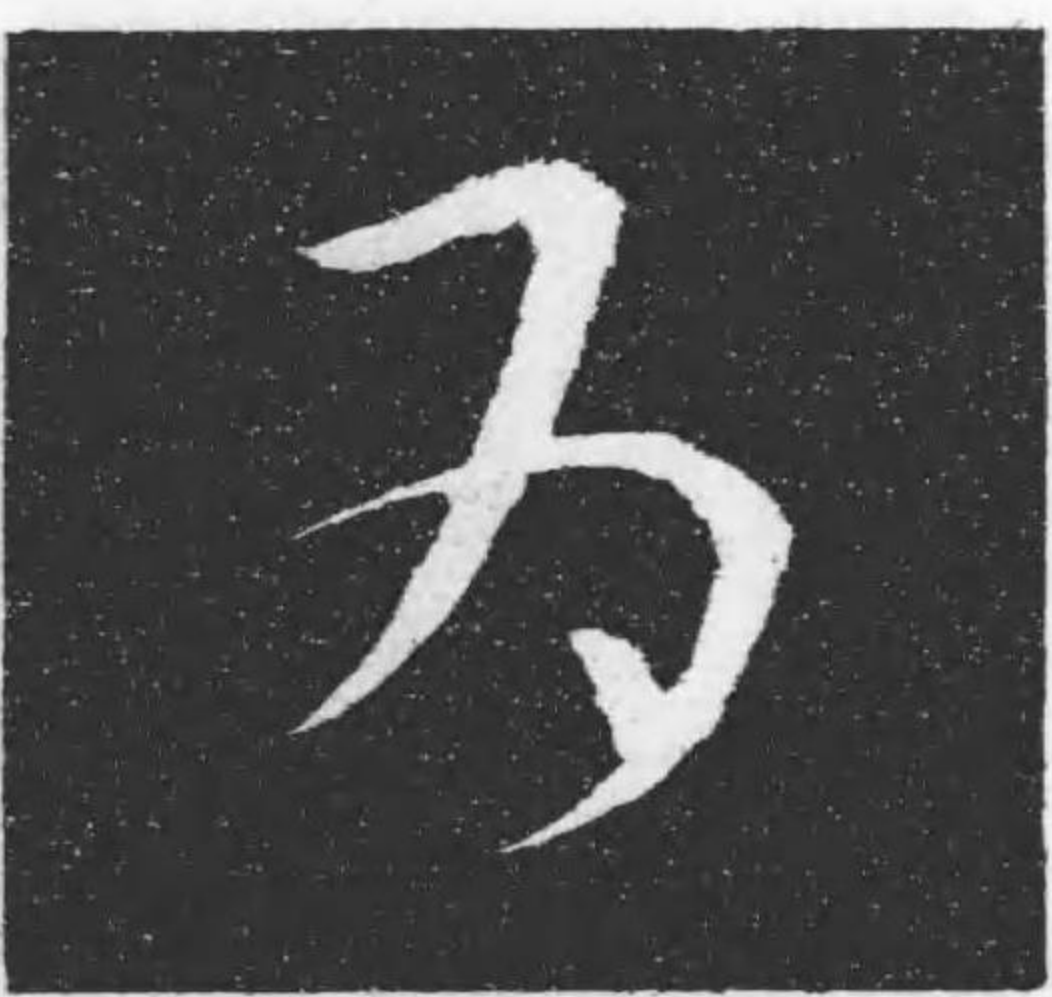
一〇〇頁の二行二字目にあり起  
筆を比較のこし



一〇八頁の二行目の初にあり  
扁を比較のこし



一〇八頁の終にあり  
この方方あり



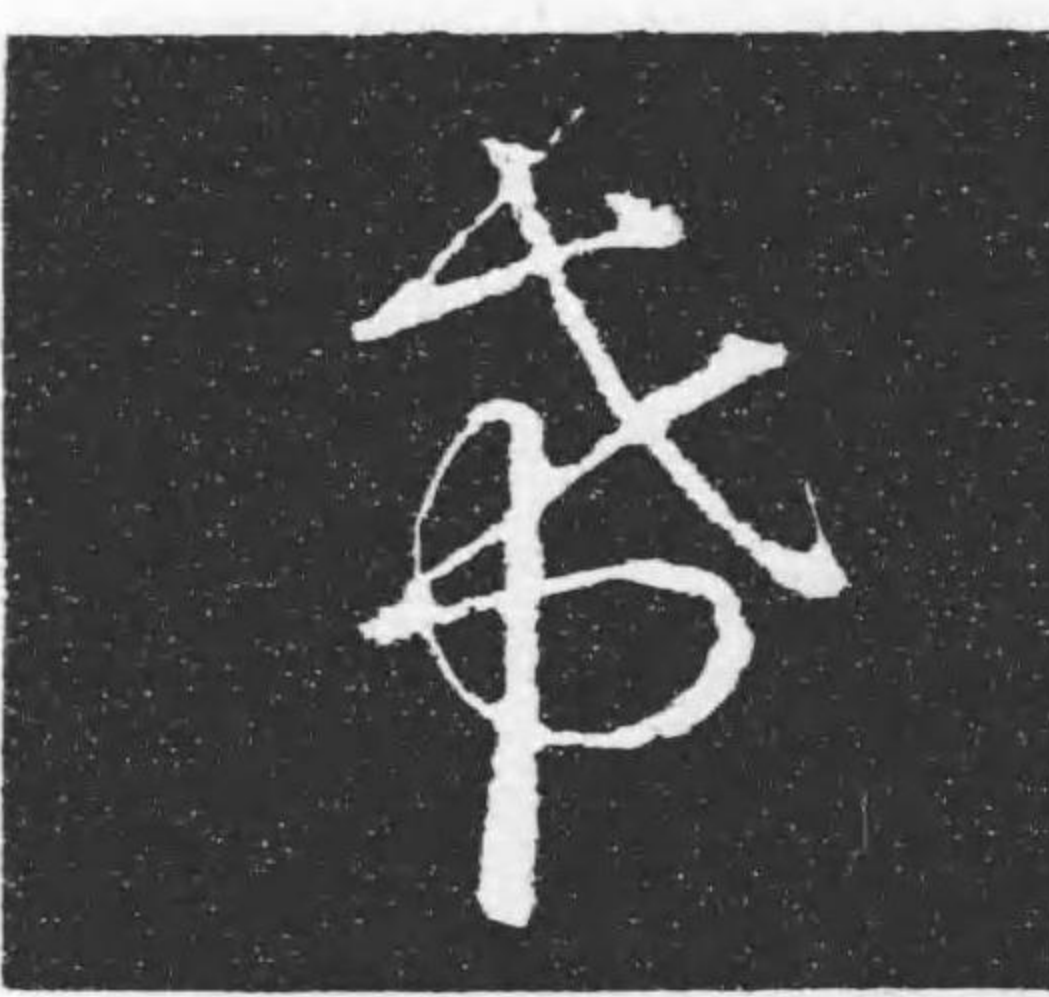
一〇九頁の初行四字目にあり  
連綿比較のこし



一〇九頁の初行終にあり  
この方方あり



一一五頁の初行終にあり  
終刺比較のこし



一一六頁の初行三字目にあり  
この方濫健



一一七頁の初にあり  
波法を比較のこし



一一八頁の初にあり  
連綿を比較のこし



一二一頁の二行二字目にあり  
この方面白し



一二二頁の終にあり  
点刺断接の所に注意



一二三頁の初行二字目にあり  
波法この方よし



一二三頁の初行三字目にあり  
終刺この方正しきが如し



一二四頁の初にあり  
この方變化あり





一一五頁の初行終にあり  
終刺比較のこみ



一一六頁の初行三字目にあり  
この方選健



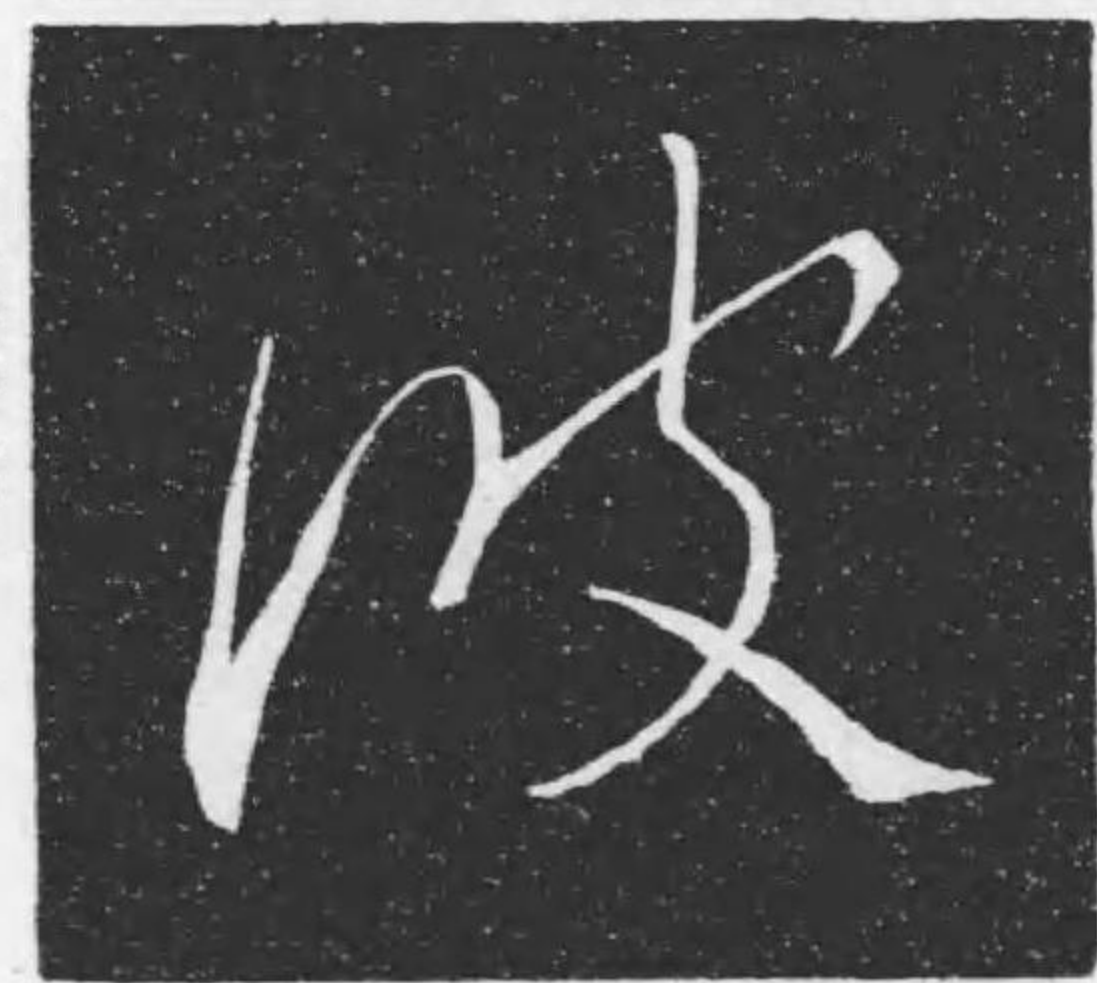
一一七頁の初にあり  
波法を比較のこみ



一一八頁の初にあり  
連綿を比較のこみ



一一九頁の二行二字目にあり  
この方面白し



一二二頁の終にあり  
点刺断接の所に注意



一二三頁の初行二字目にあり  
波法この方よし



一二三頁の初行三字目にあり  
終刺この方正しきが如し



一二四頁の初にあり  
この方變化あり



一二四頁の二行四字目にあり  
收筆を比較のこみ



一二五頁の二行の初にあり  
この方連綿面白し



一二六頁の初にあり  
同前



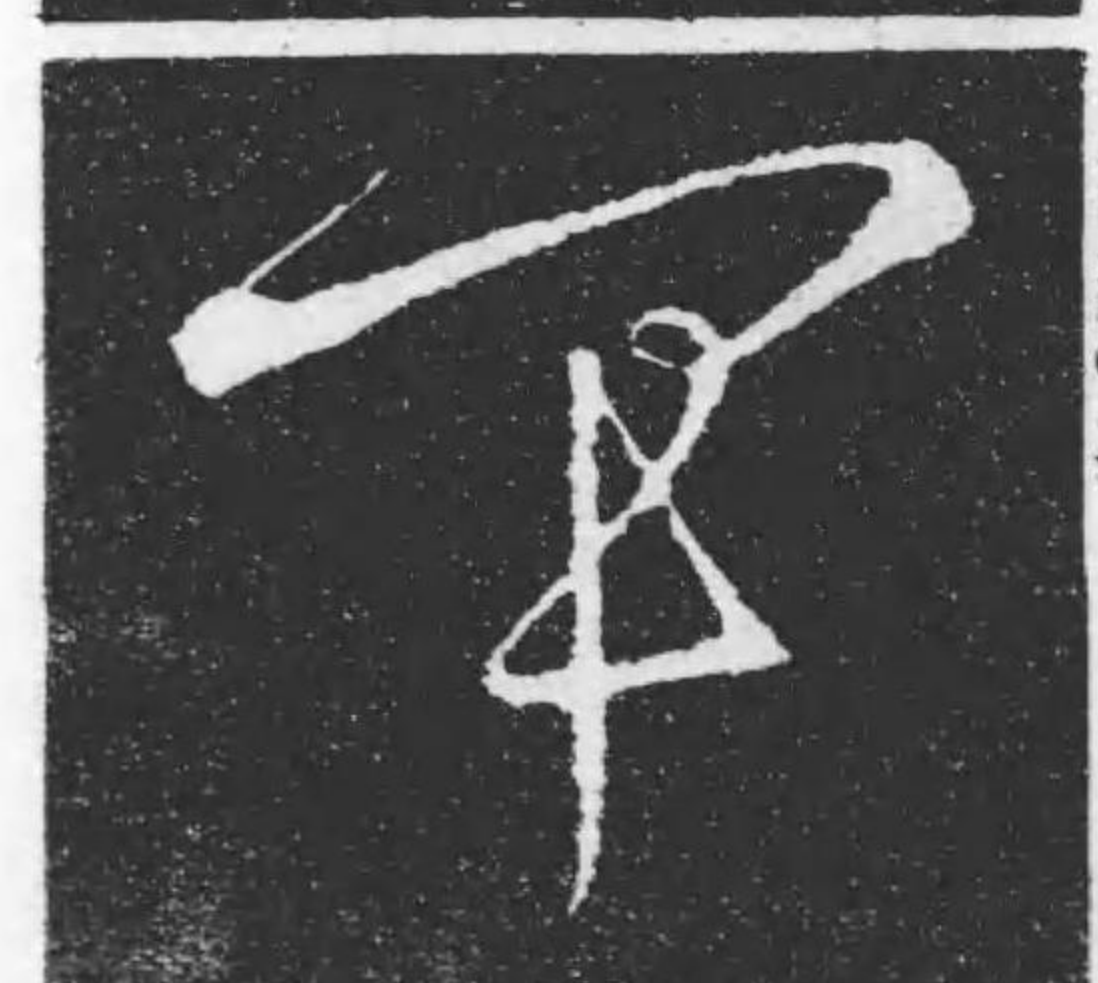
一二七頁の初行の終にあり  
同前



一二八頁の二行三字目にあり点  
刺の断接比較のこみ



一二三頁の終にあり  
收筆比較のこみ





一三四頁の二行目の初にあり  
この方正しきが如し



一三六頁の二行目の初にあり  
堅剛比較のこみ



一三六頁の初行終にあり  
連綿比較のこみ





Handwritten text in a grid format, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately 4 columns and 3 rows. The characters are faint and difficult to decipher, but appear to be a mix of letters and numbers.

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12





365

322

製復許不

昭和十年八月十日印刷  
昭和十年八月廿日發行

展大古法帖 (第四卷十七帖)

編輯兼 發行人	中 根 佐 一 郎	賣捌所
印刷所	中央書道協會專屬印刷所 岡崎市能見町一四	東大愛 京東知 堂籍書
印刷人	奧 山 仁 平	東北星 海隆野 堂館書

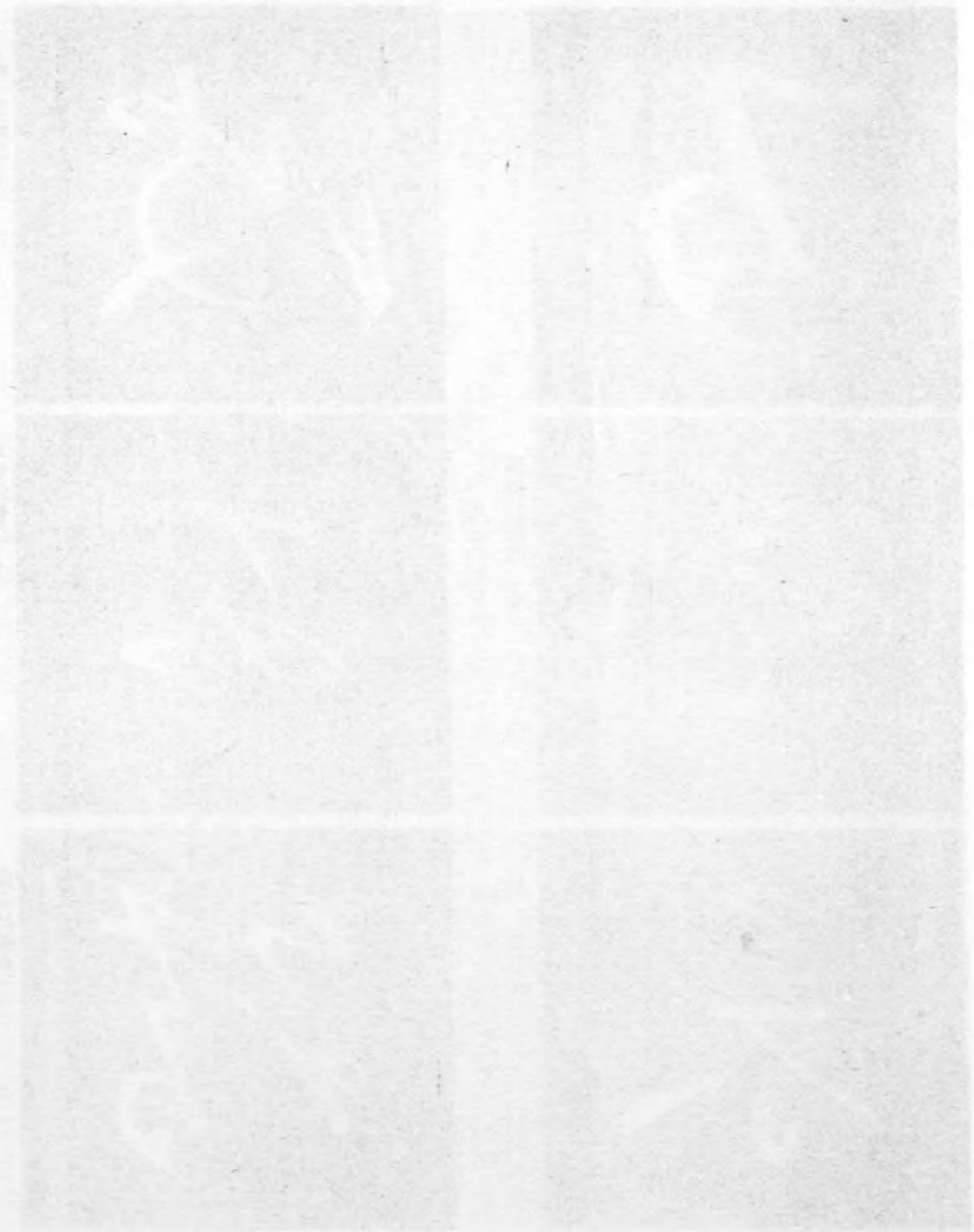
發行所

岡崎市能見町一四

中央書道協會

振替口座 名古屋 二二二二番  
電話(岡崎) 一四一七番

(圓貳金價定)





終